

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年6月29日
【事業年度】	第118期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	東邦亜鉛株式会社
【英訳名】	Toho Zinc Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 丸崎 公康
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【電話番号】	東京（6212）1711（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 田邊 正樹
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【電話番号】	東京（6212）1711（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 田邊 正樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 東邦亜鉛株式会社大阪支店 （大阪府中央区今橋三丁目3番13号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (百万円)	103,654	118,619	121,093	114,144	113,952
経常利益 (百万円)	2,636	4,428	5,567	1,007	12,541
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (百万円)	5,156	1,670	2,743	16,221	8,814
包括利益 (百万円)	3,337	3,813	4,972	19,402	8,471
純資産額 (百万円)	56,593	59,774	64,542	44,188	51,979
総資産額 (百万円)	145,814	145,014	151,970	122,160	129,700
1株当たり純資産額 (円)	416.75	440.18	475.28	325.40	382.79
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 () (円)	37.97	12.30	20.20	119.45	64.91
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.81	41.22	42.47	36.17	40.08
自己資本利益率 (%)	8.78	2.87	4.41	29.84	18.33
株価収益率 (倍)	-	25.45	18.76	-	8.41
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	6,283	8,401	2,212	13,858	7,639
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	11,282	4,753	5,070	5,619	4,125
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	383	3,594	25	7,030	2,941
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	11,414	11,493	8,628	9,801	10,368
従業員数 (名)	1,196	1,171	1,180	1,188	1,089

(注) 1. 連結売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第115期及び第116期並びに第118期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第114期及び第117期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第114期及び第117期の親会社株主に帰属する当期純損失は、豪州鉱山における減損損失の計上等によるものであります。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
売上高 (百万円)	92,697	104,942	103,643	97,976	101,403
経常利益 (百万円)	6,408	6,645	8,100	4,256	10,055
当期純利益又は当期純損失 () (百万円)	3,776	4,160	5,489	26,191	6,527
資本金 (百万円)	14,630	14,630	14,630	14,630	14,630
発行済株式総数 (株)	135,855,217	135,855,217	135,855,217	135,855,217	135,855,217
純資産額 (百万円)	61,011	64,164	70,067	42,771	48,688
総資産額 (百万円)	141,742	141,450	146,301	108,427	116,472
1株当たり純資産額 (円)	449.28	472.50	515.97	314.97	358.55
1株当たり配当額 (内、1株当たり中間配当 額) (円)	5.00 (-)	5.00 (-)	7.00 (-)	5.00 (-)	10.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額() (円)	27.81	30.64	40.43	192.88	48.07
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.04	45.36	47.89	39.45	41.80
自己資本利益率 (%)	6.38	6.65	8.18	46.42	14.27
株価収益率 (倍)	13.63	10.22	9.38	-	11.36
配当性向 (%)	18.0	16.3	17.3	-	20.8
従業員数 (名)	658	658	655	660	664

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第114期から第116期及び第118期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第117期の「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第117期の当期純損失は、豪州鉱山での減損損失の計上により、同鉱山の運営会社である子会社の株式を減損したこと等によるものであります。

2【沿革】

- 昭和12年2月： 日本亜鉛製錬株式会社として設立
安中製錬所を建設
- 昭和12年6月： 電気亜鉛の製錬を開始（安中製錬所）
- 昭和16年9月： 社名を東邦亜鉛株式会社と改める
- 昭和17年2月： 電気銅・電気亜鉛の再生、硫酸亜鉛・硫酸銅の製造を開始（安中製錬所）
- 昭和24年5月： 東京証券取引所に上場
大阪証券取引所に上場
- 昭和25年3月： 契島製錬所を買収
電気鉛の製錬を開始（安中製錬所）
- 昭和26年8月： 亜鉛焙焼、薄硫酸の製造を開始（安中製錬所）
粗鉛の製造を開始（契島製錬所）
- 昭和27年11月： 「安中運輸株式会社」を設立
- 昭和29年6月： 酸化亜鉛の製造を開始（安中製錬所）
- 昭和30年5月： 電気鉛の製錬を開始（契島製錬所）
- 昭和37年4月： 硫酸の製造を開始（安中製錬所）
- 昭和38年4月： 小名浜製錬所を建設
- 昭和38年9月： 亜鉛焙焼、硫酸の製造を開始（小名浜製錬所）
- 昭和41年8月： 藤岡製錬所を建設し、銑鉄の製造を開始（藤岡製錬所）
- 昭和42年3月： 電解鉄の製錬を開始（藤岡製錬所）
- 昭和42年7月： 「東邦キャリア株式会社」を設立
- 昭和43年1月： 「契島運輸株式会社」を設立
- 昭和47年1月： 「株式会社中国環境分析センター」を設立
- 昭和48年9月： 製鋼出煙灰等から酸化亜鉛等の有価金属を回収する方法の企業化に成功
- 昭和50年6月： 鉛遮音板をソフトカームの登録商標で販売開始
- 昭和50年7月： 韓国高麗亜鉛社の温山製錬所に電気亜鉛の年5万トン工場の建設のための技術供与
- 昭和52年2月： ジャロサイト法による亜鉛浸出滓の湿式処理を開始（安中製錬所）
- 昭和55年10月： 鉛カルシウム合金工場を建設（藤岡製錬所）
- 昭和57年10月： 雑音防止コイル工場を建設（藤岡製錬所）
- 昭和58年3月： 粉末冶金工場を増設（安中製錬所）
炭酸亜鉛の製造を開始（安中製錬所）
- 昭和60年4月： ポット型等雑音防止コイル工場を増設（藤岡製錬所）
- 昭和60年6月： 乾電池用亜鉛粒工場を建設（安中製錬所）
- 昭和63年4月： 「株式会社ティーディーイー」を設立
- 昭和63年6月： 藤岡製錬所を藤岡事業所に名称変更
- 平成2年4月： 使用済みニッケル・カドミウム電池のリサイクル事業を開始（小名浜製錬所）
- 平成3年8月： 電子部品の生産拠点として中国大連市に合作企業「大連晶亜電器有限公司」を設立
- 平成4年6月： 無水銀、無鉛の乾電池用亜鉛粒の販売を開始
- 平成6年2月： 電子部品の販売拠点として香港に「DELIGHTFUL PROPERTIES LTD.（光明貿易有限公司）」を設立
- 平成6年3月： 粉末冶金の中国生産拠点として諸城市に合弁企業「諸城華日粉末冶金有限公司」を設立
- 平成7年12月： 硫酸石膏の製造を開始（安中製錬所）

- 平成8年6月： 機器・資材等の海外調達体制を強化するため、中国大連市に合弁企業「大連天馬電器有限公司」を設立
- 平成10年7月： 「契島興産有限会社」を設立
- 平成10年9月： 「有限会社エキスパート東邦」を設立
- 平成11年12月： 使用済乾電池のリサイクル事業を開始（安中製錬所）
- 平成12年10月： 昭和電工(株)からの事業買収により高純度電解鉄製造設備の増設（藤岡事業所）
- 平成14年7月： 光明貿易有限公司を「東邦亜鉛香港有限公司」に名称変更
- 平成15年9月： 豪州CBH Resources Ltd.に出資し、当該会社を通じてエルーラ鉱山（現：エンデバー鉱山）を買収
- 平成15年10月： 「東邦亜鉛(上海)貿易有限公司」を設立
- 平成16年10月： 電気銀の生産能力を月間30トン体制に増強（契島製錬所）
- 平成17年1月： 鉛リサイクル事業の生産拠点として中国天津市に合弁企業「天津東邦鉛資源再生有限公司」を設立
- 平成18年3月： 古河機械金属(株)との合併会社である群馬環境リサイクルセンター(株)の医療廃棄物処理施設完成
- 平成22年9月： 原料鉱石の長期的な安定確保を目的として、豪州CBH Resources Ltd.を完全子会社化
- 平成23年9月： 亜鉛の新電解工場を建設（安中製錬所）
- 平成24年7月： 豪州CBH Resources Ltd.のラスプ鉱山が開山
- 平成24年9月： 電気銀の生産能力を年産400トン体制に増強（契島製錬所）

3【事業の内容】

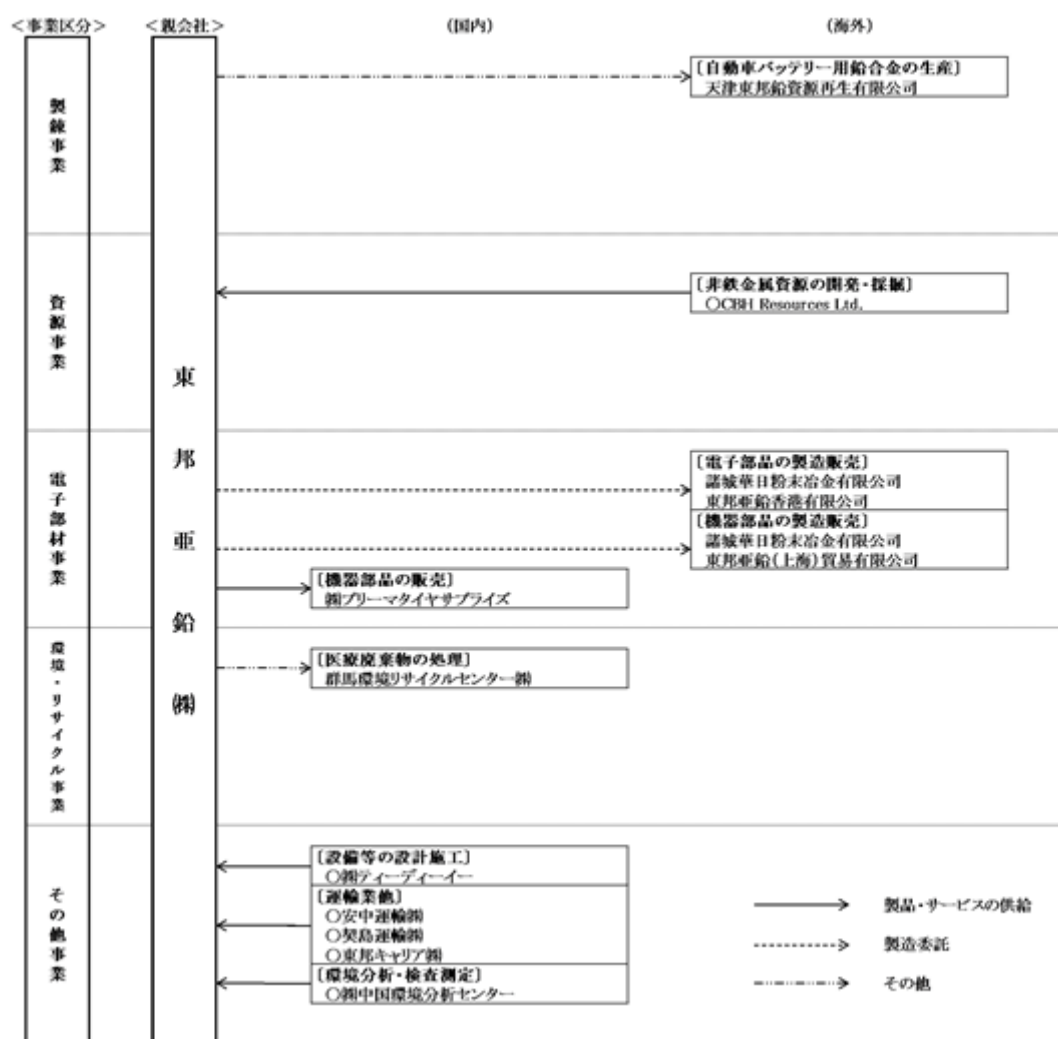
当社グループは、当社と子会社14社及び関連会社4社で構成され、非鉄金属製品の製造販売、非鉄金属資源の探査・開発・生産及び販売、電子部材の製造販売と環境・リサイクル事業を主な内容とし、子会社を通じ物流その他サービス事業を展開しております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、次の部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

- 製錬事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 連結財務諸表提出会社（以下、「当社」という。）は、亜鉛、鉛、銀等の非鉄金属製品の製造販売を行っております。
 - 資源事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 連結子会社のCBH Resources Ltd.を中心に亜鉛、鉛鉱石等の非鉄金属資源の探査、開発、生産及び販売を行っております。
 - 電子部材事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ノイズフィルターを中心とする電子部品は主として中国の子会社を含む海外の加工業者に加工を委託し、当社で販売しております。電解鉄、プレーティング製品など電子材料は当社で製造販売を行っております。また、機器部品については、中国の子会社及び当社で製造販売を行っております。
 - 環境・リサイクル事業・・・・・・・・・・・・・・ 電炉ダストからのリサイクル製品である酸化亜鉛を中心に当社で製造販売を行っております。
- その他事業
- (1) 防音建材事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 防音建材等は、当社で製造販売を行っております。
 - (2) 土木・建築・プラントエンジニアリング事業・・ 連結子会社の㈱ティーディーイーが設計施工、製造及び販売を行っております。
 - (3) その他事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 物流、環境分析などのサービス部門は、主として連結子会社の安中運輸㈱、契島運輸㈱、東邦キャリア㈱及び㈱中国環境分析センターが行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



(注) 印は連結子会社(6社)、 印は持分法適用関連会社(無し)、その他(12社)

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱ティーディーイー	東京都中央区	100	その他	100	当社の設備増改築 メンテナンス 役員の兼任...無
安中運輸㈱	群馬県安中市	20	その他	100	当社の非鉄金属製品 等の運送事業 資金援助あり 役員の兼任...無
契島運輸㈱	広島県豊田郡	30	その他	100	当社の非鉄金属製品 等の運送、製品等の 販売 役員の兼任...無
東邦キャリア㈱	福島県いわき市	10	その他	100	当社の非鉄金属製品 等の運送、製品等の 販売 資金援助あり 役員の兼任...無
㈱中国環境分析センター	広島県竹原市	10	その他	100	当社の非鉄金属製錬 工程での試料採取・ 分析及び測定 役員の兼任...無
CBH Resources Ltd. (注)2	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州	百万A.\$ 449	資源	100	当社に対する原料鉬 石の供給 資金援助あり 役員の兼任...有

(注)1. 「主要な事業の内容欄」には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

3. 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えている連結子会社はありません。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（名）
製 錬	411
資 源	275
電子部材	127
環境・リサイクル	57
報告セグメント計	870
その他	173
全社（共通）	46
合計	1,089

- (注) 1. 従業員数は、就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除く。）であります。
 2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
 3. 資源事業の従業員数は、前連結会計年度末の373名から98名減少しました。これは豪州に保有する鉱山の減産によるものです。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
664	41.9	18.2	4,847

セグメントの名称	従業員数（名）
製 錬	411
資 源	7
電子部材	127
環境・リサイクル	57
報告セグメント計	602
その他	16
全社（共通）	46
合計	664

- (注) 1. 従業員数は、就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であります。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、日本基幹産業労働組合連合会（基幹労連）に加盟しており、組合員数は541名であります。また、連結子会社に係る労働組合は、安中運輸労働組合、契島運輸労働組合、東邦キャリア労働組合並びに全日本海員組合であり、所属の組合員数は45名であります。
 なお、労使は、相互信頼を基盤に円満な関係を維持しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、日銀による金融緩和政策を背景として、企業収益や雇用・所得環境の改善に支えられ、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、前期に比べ為替円高（米ドル安）による減益要因はあったものの、総じて金属相場（米ドル建て）の上昇が追い風となりました。金属相場については、亜鉛・鉛ともに上昇基調となり、特に亜鉛のLME（ロンドン金属取引所）相場は、鉱石需給の逼迫予想などを背景に平成28年1月のトン当たり1,400ドル台半ばから上昇を続け、29年2月中旬には一時3,000ドルに接近するなど、大幅な上昇となりました。一方、円/米ドル相場は、期初からの円高傾向が夏場以降反転し、米国大統領選挙以降は円安に振れたものの、第4四半期に入り、強い米ドルによる米国経済への悪影響が懸念され、一時のインフレ期待も後退したことから円高が進み、期中平均では前期比円高となりました。連結子会社である豪州の鉱山会社CBH Resources Ltd.（以下、「CBH社」という。）の業績に影響を与える米ドル/豪ドル相場は、多少の上下はあったものの、年平均では前年並みとなりました。

当社グループの当連結会計年度の業績は、製錬事業で金属相場（LME相場等）の上昇や製品の増販もあり前期比増収となった一方、CBH社が保有するエンデバー鉱山の計画減産の影響で資源事業が大幅減収となり、連結売上高は1,139億52百万円と前期並みとなりました。

損益面では、前期は在庫評価損の実現によって営業利益及び経常利益が低水準にとどまったほか、鉱山の減損（約152億円）を行ったことで、親会社株主に帰属する当期純損益は大幅な赤字となりました。一方当期は、期を通じて金属相場が上昇基調であったことから在庫評価益が実現し、製錬事業において大幅な増益となりました。また、前期に実施した鉱山の減損の結果、減価償却費負担が減少したことに加え、金属相場が上昇したことから資源事業も増益となり、営業利益は127億66百万円と前期比113億69百万円（814%）の大幅な増益となり、同じく経常利益も125億41百万円と前期比115億34百万円（1,145%）の大幅な増益となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、88億14百万円と前期比250億35百万円の大幅な増益となりました。

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益又は損失 ()
平成29年3月期	113,952	12,766	12,541	8,814
平成28年3月期	114,144	1,397	1,007	16,221
増減	192	11,369	11,534	25,035
(増減率%)	(0)	(814)	(1,145)	(-)

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

製錬事業部門

《亜鉛》

LME相場は、期初1,842ドル/トンでスタートし、鉱石需給のタイト化を背景に、米国新政権の政策への期待感なども加わり上昇を続け、期中平均は2,367ドルと、前期（1,831ドル）を536ドル上回りました。国内価格は円高の影響などもあり期中平均306千円/トンと前期（269千円）比36千円の上昇にとどまったものの、販売量の増加もあり、売上高は前期比27%の増収となりました。

《鉛》

LME相場は、期初1,720ドル/トンでスタートし、亜鉛ほどではないものの概ね上昇基調となり、期中平均は2,005ドルと前期（1,770ドル）を234ドル上回りました。国内価格は円高の影響などもあり期中平均275千円/トンと前期（273千円）比若干の上昇にとどまったものの、販売量の増加もあり、売上高は前期比16%の増収となりました。

《銀》

ロンドン銀相場は、期初15.4ドル/トロイオンスでスタートしたのち上昇基調となり、8月には20ドル台を付けたものの、その後は下落に転じ、期中平均は17.7ドルと前期（15.2ドル）を2.5ドル上回りました。国内価格は、円高の影響などもありましたが、期中平均63,051円/キログラムと前期（60,352円）比2,699円の上昇となりました。この結果、売上高は前期比5%の増収となりました。

以上のほか、硫酸などその他の製品を合わせた当事業部門の売上高は、円高の影響はあったものの金属相場上昇や増販の影響が大きく、873億41百万円と前期比94億38百万円（12%）の増収となりました。営業利益は、金属相場が期を通じて上昇基調であったことから在庫評価益の実現が寄与し、83億39百万円と前期比65億26百万円（360%）の大幅な増益となりました。

（単位：百万円）

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減（増減率%）
売上高	77,903	87,341	9,438 (12)
営業利益	1,813	8,339	6,526 (360)

なお、金属相場及び為替相場の推移は下表のとおりであります。

区分	亜鉛（月平均）		鉛（月平均）		銀（月平均）		為替期末日レート	
	LME相場	国内価格	LME相場	国内価格	ロンドン相場	国内価格	対米ドル	対豪ドル
	\$/t	//t	\$/t	//t	\$/toz	//kg	//\$	//A\$
27年3月	2,029	291,500	1,785	275,000	16.2	64,410	120.17	92.06
6月	2,087	307,400	1,836	292,000	16.1	65,710	122.45	93.93
9月	1,719	260,400	1,682	263,000	14.7	58,330	119.96	84.06
12月	1,522	234,800	1,701	262,900	14.1	56,780	120.61	87.92
28年3月	1,805	255,500	1,808	266,300	15.4	57,250	112.68	86.25
6月	2,023	262,400	1,714	240,200	17.2	59,531	102.91	76.74
9月	2,293	282,900	1,942	252,000	19.3	64,636	101.12	77.04
12月	2,672	358,800	2,231	321,300	16.4	62,798	116.49	84.36
29年3月	2,782	361,500	2,277	315,100	17.6	65,440	112.19	85.84

資源事業部門

CBH社を擁する当事業部門は、前期後半の金属価格の低迷を反映したエンデバー鉱山の計画減産実施の影響から出荷量が減少したこともあり、売上高は91億28百万円と前期比90億25百万円（50%）の大幅な減収となりました。一方、営業利益は、前期に実施した鉱山の減損による減価償却費負担の軽減効果や金属相場の上昇などもあり、19億85百万円と黒字に転じました。

（単位：百万円）

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減（増減率%）
売上高	18,154	9,128	9,025 (50)
営業利益又は損失（ ）	2,413	1,985	4,398 (-)

電子部材事業部門

《電子部品》

新車種への採用など、車載電装向けの販売は好調であったものの、産業機器向けが回復せず、また、OA機器向けやエアコン向けの販売が大幅に落ち込み、売上高は前期比11%の減収となりました。

《電解鉄》

世界のトップシェアを誇る電解鉄は、自動車用特殊鋼向けの販売は好調であったものの、航空機用特殊鋼向けの輸出版売が落ち込み、売上高は前期並みとなりました。

《プレーティング》

プレーティング製品（各種電子機器の接点・接続端子に使用される金、銀、錫、ニッケル等のメッキ材）は、デジタルカメラ用や産業機器用が減販となったものの、民生機器用やコネクタ用で販売を伸ばし、売上高は前期比3%の増収となりました。

《機器部品》

タイヤ用バランスウエイト部門は中国向け販売が振るわず減販となったものの、粉末冶金部門は自動車関連部品が好調に推移し、売上高は前期比2%の増収となりました。

以上の結果、当事業部門の売上高は59億6百万円と前期比2億49百万円（4%）の減収、営業利益は6億36百万円と前期比38百万円（6%）の減益となりました。

（単位：百万円）

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減(増減率%)
売上高	6,155	5,906	249 (4)
営業利益	675	636	38 (6)

環境・リサイクル事業部門

使用済みニカド電池の処理や硫酸リサイクルなど、その他のリサイクル事業は需要減や価格下落などの影響から低調だったものの、主力製品の酸化亜鉛が亜鉛の国内価格の上昇や増販により好調に推移した結果、当事業部門の売上高は45億36百万円と前期比1億27百万円(3%)の減収となりましたが、営業利益は14億10百万円と前期比6億58百万円(88%)の大幅な増益となりました。

(単位:百万円)

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減(増減率%)
売上高	4,663	4,536	127 (3)
営業利益	751	1,410	658 (88)

その他事業部門

《防音建材(商品名:ソフトカーム)事業》

医療向け遮蔽材需要が低迷したため、主力のX線遮蔽鉛板の落ち込みが大きく、また、前期にあった原発関連の販売が無かったこともあり、売上高は前期比16%の減収となりました。

《土木・建築・プラントエンジニアリング事業》

大型プラント案件の売上などもあり、前期比16%の増収となりました。

《運輸事業》

運送荷物やリサイクル原料等の扱い量の減少により、売上高は前期比25%の減収となりました。

以上のほか、環境分析部門を合わせた当事業部門の売上高は70億39百万円と前期比2億28百万円(3%)の減収、営業利益は7億39百万円と前期並みとなりました。

(単位:百万円)

	平成28年3月期	平成29年3月期	増減(増減率%)
売上高	7,268	7,039	228 (3)
営業利益	751	739	12 (2)

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ5億66百万円増加し、当連結会計年度末は103億68百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、76億39百万円の収入(前期比62億18百万円の収入減)となりました。金属相場の上昇を背景とした製錬事業や資源事業での好業績から営業活動によるキャッシュ・フローはプラスとなりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、41億25百万円の支出(前期比14億94百万円の支出減)となりました。これは主に鉱山の開発や、国内製錬所・事業所における設備の維持・更新投資によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは29億41百万円の支出(前期比40億89百万円の支出減)となりました。これは主に好業績を背景に有利子負債を削減したことによるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
製 錬	80,385	106.6
資 源	9,239	56.0
電子部材	5,903	95.8
環境・リサイクル	4,275	94.7
報告セグメント計	99,803	97.3
その他	1,426	83.9
合計	101,230	97.1

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
但し、電子部材事業、環境・リサイクル事業、その他事業の生産高は、販売金額と同額であります。
2. 製錬事業には、八戸製錬(株)他委託分が含まれております。
3. 資源事業の減少は、豪州に保有する鉱山の減産によるものです。
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
製 錬	249	65.0	30	104.6
資 源	-	-	-	-
電子部材	5,835	103.7	952	146.7
環境・リサイクル	341	104.5	17	177.3
報告セグメント計	6,426	101.4	1,000	145.4
その他	2,288	40.8	2,034	55.5
合計	8,714	72.9	3,035	69.7

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
製 錬	87,341	112.1
資 源	9,128	50.3
電子部材	5,906	96.0
環境・リサイクル	4,536	97.3
報告セグメント計	106,912	100.0
その他	7,039	96.9
合計	113,952	99.8

- (注) 1. 総販売実績に対し、10%以上に該当する販売先はありません。
2. セグメント間の取引については、相殺消去しております。
3. 資源事業の減少は、豪州に保有する鉱山の減産によるものです。
4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売価格

当連結会計年度における販売価格の変動については、第2「事業の状況」 1「業績等の概要」において、各セグメントに関連付けて記載しております。

3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

「全員で架けよう未来への橋」のスローガンのもと、第10次中期3ヵ年経営計画として以下の主要課題の達成を経営方針としております。

- () 資源事業部門では、生産計画の必達とコスト削減努力により、赤字から黒字化への転換を図ってまいります。
- () 製錬事業部門では、ステークホルダーの期待に応えるべく、より一層の効率的な操業を実現してまいります。
- () 資源、製錬事業部門以外では、相対的に市況影響を受けない事業特性を活かし、安定収益を獲得してまいります。

当社グループといたしましては、以上の諸施策を鋭意遂行し、皆様のご期待にお応えするとともに、コンプライアンス及びリスク管理の重要性を再認識し、内部統制システムの一層の整備・充実を通じ、継続的な発展と企業価値の増大を図るため総力を挙げて取り組んでまいります。

(2) 経営環境

当社グループは、平成27年度を初年度とする第10次中期3ヵ年経営計画「東邦新生プラン」を策定し、その目標の達成に向けて全社を挙げ鋭意取り組んでおります。2年目に当たる当年度（平成28年度）におきましては、鉱石需給の逼迫予想などを背景とした金属相場の上昇により、前期に比べ大きな利益を計上することができました。原料鉱石が逼迫し、買鉱条件が悪化する中において、製錬事業の原料鉱石の長期安定確保と持続的成長の実現のため平成22年に子会社化した豪州のCBH社においては、金属相場の上昇などにより初めて黒字化し、資源セグメントの収益に貢献いたしました。一時減産体制をとっていたエンデバー鉱山では、フル操業に向けての人員増、坑内開発も計画通り進めております。当社のコア事業である製錬事業の安定した操業を確保するため、CBH社の経営に注力し、経営効率化に取り組むとともに、収益力の拡大を図ってまいります。

一方で、今後につきましては、中国など新興国経済の減速懸念、米国新政権の政策動向や英国のEU離脱による影響等により、当社グループの損益に大きな影響を及ぼす金属相場、為替相場は先行き不透明な状況が続くものと思われます。

(3) 対処すべき課題

当社の主要事業である製錬事業部門や資源事業部門は、為替相場や金属相場といった市況に大きく影響を受けます。当社としましては、一定の市況前提のもとで計画した生産量を確実に達成することで、計画した利益の確保に努めてまいります。また、どちらの事業部門においても操業上の事故・トラブルが業績に与える影響が大きく、安全・安定操業が大きな課題となります。また、相対的に市況の影響を受けにくい事業部門における安定収益の確保にも引き続き努めてまいります。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものです。

(1) 金属価格

製錬事業の亜鉛及び鉛の原料鉱石価格と製品価格は、LME（ロンドン金属取引所）の価格を基準としております。

また、鉱石の買鉱条件である製錬費（T/C）は、LME価格変動の影響を受けます。

このため、社内予算価格を基準に適宜金属先物予約取引を実施し、LME価格変動のリスクを最小限に止める努力を実施しておりますが、LME価格が予想以上に急激かつ大幅に変動した場合など、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 為替相場

亜鉛及び鉛の製錬事業の主原料である鉱石は、海外から輸入しておりますが、その買鉱条件である製錬費（T/C）は米ドル建てとなっていることと、各製品の国内販売価格は米ドル建て価格を円換算したものを基礎としているため、米ドルに対する円高は当社グループの業績に悪影響を及ぼし、円安は好影響をもたらします。この関係はCBH社においても同様で、生産物である鉱石価格が米ドル建てであるため、豪ドル安が好影響をもたらします。

このため、社内予算レートを基準に適宜為替先物予約を実施し、為替変動のリスクを最小限に止める努力を実施しておりますが、為替相場が予想以上に急激かつ大幅に変動した場合など、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 金利変動

当社グループの主力事業である製錬事業や資源事業は、その運営や開発に多額の資金を必要とします。金利変動リスクを可能な限り回避するため諸手段を講じておりますが、金融情勢が大きく変化した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 原材料の確保

当社グループの主力事業である製錬事業の主原料である亜鉛及び鉛鉱石の確保は、経営上の重要課題です。亜鉛及び鉛鉱石は、当社の連結子会社CBH Resources Ltd.のエンデバー鉱山・ラスプ鉱山及びペルー・豪州等の有力鉱山からその多くを調達しております。

従って、当該鉱山において事故等不測の事態が発生した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 環境規制等

国内外の事業所においては、環境関連法令に基づき、大気、排水、土壌、地下水等の汚染防止に努め、また、国内の管理鉱山については、鉱山保安法に基づき、坑廃水による水質汚濁の防止や堆積場の安全管理等、鉱害防止に努めておりますが、関連法令の改正等によっては、当社グループに新たな費用が発生する可能性があります。

(6) 自然災害等

地震等の自然災害によって不測の事態が発生し製造拠点が影響を受けた場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは長年培ってきた素材、製錬等の技術をベースに鉱石中の未回収有価金属の再資源化技術の研究開発に努力しております。また、電子部品、電子材料の開発など社会のニーズに合致した製品開発のため長期的視野に立って研究開発を鋭意行っております。

研究開発拠点としては、各製錬所に現場密着型の研究組織を配置し、製錬インフラを活用した環境・リサイクル事業の推進と開発に重点を置いた研究を行っております。また、電子部品、電子材料、高純度電解鉄については、東邦亜鉛テクニカルセンターが研究開発を担っており、高レベル化を目指しています。同時に大学、研究機関との共同研究、提携研究も積極的に行っております。

なお、当連結会計年度中に支出した研究開発費は1億7百万円、研究人員は50名であります。

セグメント別の主な研究開発の内容は、次のとおりであります。

(1) 製錬事業部門

製錬部門は徹底的なコストダウン及び品質向上のためのプロセス改善に取り組んでおります。特に電力代の大幅アップに対する技術改善やエネルギー改善に努力しております。今後とも工程効率化対策や省エネルギー対策に取り組んでまいります。

金属加工品、未回収金属、化成品は需要家ニーズに迅速に応え、よりハイテク分野への飛躍を目指すための研究開発を行っております。

(2) 電子部材事業部門

電子部品

磁性材料研究は高周波化、高電流密度化をさらに進め、材料や部品のデザイン開発を並行して行っております。特に自動車電装品、環境・エネルギー機器向けの優れた電流重畳特性及び低損失を有すインダクタ開発に注力しております。

電子材料・電池材料

プレーティング材料は需要家ニーズに応えるため、より精密な製品についての技術開発を続けております。

高純度電解鉄

電解鉄の優れた機能をより引き出して製品化するため、大学、研究機関と提携し研究を進めております。

(3) 環境・リサイクル事業部門

低品位かつ難処理原料からの有価物回収に取り組んでおります。

以上のように、顧客ニーズへの対応を第一に、従来の技術の応用のほか、新規素材、新規製品を世に送り出すため、研究人員、研究インフラ、生産設備を並行して充実する努力を続けております。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ75億40百万円増加し、1,297億円となりました。これは機械装置及び運搬具を中心に固定資産が減少したものの、金属相場の上昇に伴う販売単価の上昇から売上債権が増加したこと等によるものであります。

(負債)

負債については、前連結会計年度末並みの777億21百万円となりました。

(純資産)

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益88億14百万円の計上などにより前連結会計年度末に比べ77億91百万円増加し、519億79百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は当連結会計年度末において40.1%となり、前連結会計年度末に比べ3.9ポイント上昇しております。

(2) 経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析は、第2「事業の状況」 1「業績等の概要」の項目をご参照ください。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

設備投資については、生産設備の能力増強、合理化及び維持・更新などを目的として、継続的に実施しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は、37億45百万円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 製錬事業部門

当連結会計年度の主な設備投資は、亜鉛・鉛製錬事業の生産設備の維持・更新及び能力増強・合理化等の総額15億29百万円の投資を実施しました。

なお、生産能力に重要な影響を与える設備の除却又は売却はありません。

(2) 資源事業部門

当連結会計年度の主な設備投資は、オーストラリアのエンデバー鉱山及びラスプ鉱山開発を中心とした総額13億97百万円の投資を実施しました。

なお、生産能力に重要な影響を与える設備の除却又は売却はありません。

(3) 電子部材事業部門

当連結会計年度の主な設備投資は、電子部品・電解鉄・プレーティング・機器部品の維持・更新等を中心とした総額1億54百万円の投資を実施しました。

なお、生産能力に重要な影響を与える設備の除却又は売却はありません。

(4) 環境・リサイクル事業部門

当連結会計年度の主な設備投資は、生産設備の維持・更新等を中心とした総額2億8百万円の投資を実施しました。

なお、生産能力に重要な影響を与える設備の除却又は売却はありません。

(5) その他事業部門

当連結会計年度の主な設備投資は、生産設備の維持・更新等を中心とした総額4億23百万円の投資を実施しました。

なお、生産能力に重要な影響を与える設備の除却又は売却はありません。

(6) 全社

各報告セグメントに該当しない本社管理部門等における設備投資であり、当連結会計年度において31百万円の投資を実施しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及 び構築 物	機械装 置及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他		合計
安中製錬所 (群馬県安中市)	製錬 電子部材	電気亜鉛製造設備 粉末冶金製造設備	2,751	3,063	5,310 (599)	-	32	11,157	218
小名浜製錬所 (福島県いわき市)	製錬 環境・リサイクル	亜鉛鉱石焙焼設備 酸化亜鉛製造設備	1,070	2,475	4,938 (385)	76	19	8,580	92
契島製錬所 (広島県豊田郡)	製錬	電気鉛製造設備 電気銀製造設備	1,727	1,482	225 (463)	-	30	3,467	157
藤岡事業所 (群馬県藤岡市)	電子部材	電子部品製造設備 電解鉄製造設備 プレーティング設備	654	990	5,463 (310) [36]	-	24	7,133	100
鉾山管理事務所 (長崎県対馬市)	全社	管理業務	6	0	21 (261)	-	1	30	4
本社 (東京都千代田区)	全社	販売及び管理業務	90	0	192 (643)	-	83	366	80

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおりません。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 鉾山管理事務所の土地のなかに鉾業用地221千㎡ 9百万円が含まれております。

本社の土地のなかに鉾業用地77千㎡ 7百万円が含まれております。

3. 上記中[]内は、連結会社以外へ貸与中の土地(面積千㎡)であります。

(2) 国内子会社

平成29年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
(株)ティーディーイー	本社 (東京都中央区)	その他	廃水試験設備及び建設機材等	5	4	394 (20)	-	1	406	46
安中運輸(株)	本社 (群馬県安中市)	その他	貨物用車両等及びゴルフ練習場設備	143	133	996 (49)	-	1	1,275	47
契島運輸(株)	本社 (広島県豊田郡)	その他	貨物用車両等及び小型フェリー	1	28	48 (0)	-	-	78	20
東邦キャリア(株)	本社 (福島県いわき市)	その他	貨物用車両等及び自動車整備工場	6	24	228 (12)	-	0	259	22
(株)中国環境分析センター	本社 (広島県竹原市)	その他	測定機器等	35	-	18 (0)	-	14	68	22

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定を含んでおりません。
なお、金額には消費税等を含めておりません。

(3) 在外子会社

平成29年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
CBH Resources Ltd.	エンデバー鉱山 (オーストラリア ニューサウスウェールズ州)	資源	亜鉛・鉛鉱石生産設備	226	97	-	-	866	1,190	66
	ラスプ鉱山 (オーストラリア ニューサウスウェールズ州)	資源	亜鉛・鉛鉱石生産設備	758	6,365	-	-	9,886	17,009	191
	シップローダー (オーストラリア ニューサウスウェールズ州)	資源	鉱石船積設備	571	553	-	-	-	1,125	0

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は鉱業権であり、建設仮勘定を含んでおりません。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. エンデバー鉱山の従業員数は、前連結会計年度末の167名から101名減少しましたが、これは同鉱山の減産によるものです。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設及び改修

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設及び改修計画はありません。なお、当連結会計年度後1年間の設備投資計画は5,620百万円であり、その主な内訳は次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資予定金額		着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				予算金額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着手	完了	
当社 安中製錬所	群馬県安中市	製錬	亜鉛製品製造 設備等	787	-	平成29年 4月	平成30年 3月	-
当社 契島製錬所	広島県豊田郡	製錬	鉛製品製造設 備等	489	-	平成29年 4月	平成30年 3月	-
当社 小名浜製錬所	福島県いわき市	製錬	亜鉛製品製造 設備等	307	-	平成29年 4月	平成30年 3月	-
当社 小名浜製錬所	福島県いわき市	環境・リサイクル	酸化亜鉛製造 設備等	328	-	平成29年 4月	平成30年 3月	-
当社 藤岡事業所	群馬県藤岡市	電子部材	電子部品・電 子材料製造設 備	298	-	平成29年 4月	平成30年 3月	-
CBH Resources Ltd. エンデバー鉱山	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州	資源	亜鉛・鉛鉱石 生産設備	624	-	平成29年 1月	平成29年 12月	-
CBH Resources Ltd. ラスプ鉱山	オーストラリア ニューサウス ウェールズ州	資源	亜鉛・鉛鉱石 生産設備	1,833	-	平成29年 1月	平成29年 12月	-

(注) 所要資金は、自己資金ないし借入金により充当する予定であります。

(2) 重要な設備の除却

生産能力に重要な影響を及ぼす設備の除却はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	264,000,000
計	264,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年6月29日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	135,855,217	135,855,217	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は、1,000株であります。
計	135,855,217	135,855,217	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成18年6月5日 (注)	10,000,000	135,855,217	4,390	14,630	4,386	6,950

(注) 一般募集による新株式発行

発行価格 1株につき 金 915円
発行価額 1株につき 金 877.64円
資本組入額 1株につき 金 439円
払込金総額 8,776百万円

(6)【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方 公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	48	54	113	191	3	8,400	8,809	-
所有株式数 (単元)	-	64,488	9,034	12,703	26,719	5	22,623	135,572	283,217
所有株式数の割合 (%)	-	47.57	6.66	9.37	19.71	0.00	16.69	100.00	-

(注) 自己株式数62,710株は、「個人その他」に62単元及び「単元未満株式の状況」に710株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	22,398	16.49
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	12,653	9.31
三菱UFJ信託銀行株式会社(常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4-5 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	5,350	3.94
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	4,004	2.95
三菱商事R t Mジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7-2	4,000	2.94
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	2,992	2.20
BNPパリバ証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	2,698	1.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,170	1.60
株式会社扇谷	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目3-7	2,003	1.47
JP MORGAN CHASE BANK 385151(常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15-1)	1,620	1.19
計	-	59,889	44.08

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	22,398千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,653千株
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,004千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,170千株

2. 平成29年4月6日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、野村證券株式会社及び共同保有者2社が平成29年3月31日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目9-1	600	0.44
NOMURA INTERNATIONAL PLC	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	526	0.39
野村アセットマネジメント株式会社	東京都中央区日本橋1丁目12-1	11,109	8.18
計	-	12,235	9.01

3. 平成29年2月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、大和証券投資信託委託株式会社及び共同保有者1社が平成29年2月15日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
大和証券投資信託委託株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	8,616	6.34
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9-1	220	0.16
計	-	8,836	6.50

4.平成28年11月8日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、株式会社みずほ銀行及び共同保有者2社が平成28年10月31日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	967	0.71
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目5-1	254	0.19
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8-2	5,945	4.38
計	-	7,166	5.28

5.平成28年10月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、三井住友信託銀行株式会社及び共同保有者2社が平成28年10月14日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	2,885	2.12
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝3丁目33-1	311	0.23
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂9丁目7-1	5,607	4.13
計	-	8,803	6.48

6.平成28年9月1日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及び共同保有者4社が平成28年8月25日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	300	0.22
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	11,140	8.20
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目12-1	2,757	2.03
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目5-2	444	0.33
エム・ユー投資顧問株式会社	東京都千代田区神田駿河台2丁目3-11	300	0.22
計	-	14,941	11.00

(8) 【議決権の状況】
【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 62,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 135,510,000	135,510	-
単元未満株式	普通株式 283,217	-	-
発行済株式総数	135,855,217	-	-
総株主の議決権	-	135,510	-

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
東邦亜鉛株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目8番2号	62,000	-	62,000	0.05
計	-	62,000	-	62,000	0.05

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	3,027	1,119,836
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の買増請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	62,710	-	62,710	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成29年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

利益配分につきましては、事業展開に必要な内部留保の充実に留意しつつ、安定的な配当を継続的に行うことを基本といたします。ただし、土地再評価差額金は、土地の再評価に関する法律第7条の2第1項の規定により、配当に充当することが制限されております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、上記方針に基づき、業績及び当社グループを取り巻く経営環境等を総合的に勘案して、期末配当を1株当たり10円とさせていただきます。

当社は、株主に対し機動的な利益還元を行えるようにするため、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めており、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことが可能であります。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

安定配当を行った上で残りました内部留保資金につきましては、金属相場等の市況に大きく影響を受ける厳しい経営環境の中で、財務体質改善や将来の事業展開に備えるための原資として有効に活用していくこととしております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は、次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年6月29日 定時株主総会決議	1,357	10

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	419	416	516	501	645
最低(円)	233	261	301	214	240

(注) 最高、最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	379	458	524	519	645	630
最低(円)	330	362	433	450	484	528

(注) 最高、最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性 6名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 -%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	-	丸崎 公康	昭和32年10月5日	昭和55年4月 当社入社 平成15年3月 亜鉛・鉛事業本部営業部長 平成23年6月 執行役員 亜鉛・鉛事業本部副 本部長兼営業部長 平成26年6月 取締役兼執行役員 亜鉛・鉛事 業本部長兼営業部長 平成27年3月 取締役兼執行役員 亜鉛・鉛事 業本部長 平成27年7月 取締役兼執行役員 亜鉛・鉛事 業本部長兼資材統括部長 平成28年6月 取締役兼常務執行役員 亜鉛・ 鉛事業本部長兼資材統括部長 平成29年6月 代表取締役社長兼亜鉛・鉛事業 本部長(現任)	(注)3	22
取締役 副社長執行役員	技術・開発 管掌兼契島 製錬所長	今井 力	昭和28年12月16日	昭和52年4月 当社入社 平成14年3月 技術・開発本部技術部長 平成22年6月 執行役員 技術・開発本部長兼 技術部長兼開発部長兼知的財産 部長兼新電解工場建設プロジェ クトチームリーダー 平成23年9月 執行役員 技術・開発本部長兼 技術部長兼開発部長兼知的財産 部長 平成24年6月 取締役兼執行役員 技術・開発 本部長兼技術部長兼開発部長兼 知的財産部長 平成25年6月 取締役兼執行役員 契島製錬所 長 平成26年6月 取締役兼常務執行役員 契島製 錬所長 平成28年6月 取締役兼専務執行役員 契島製 錬所長 平成29年6月 取締役兼副社長執行役員 技 術・開発管掌兼契島製錬所長 (現任)	(注)3	39
取締役 常務執行役員	管理本部長 兼経営企画 部長兼財務 部長兼シス テム統括部 長	山岸 正明	昭和33年2月2日	昭和55年4月 三菱信託銀行(株)(現三菱U FJ信託銀行(株))入社 平成15年2月 受託財産企画部副部長兼証券業 務室長 平成16年10月 米国三菱信託銀行(現米国三菱 UFJ信託銀行)社長 平成20年6月 三菱UFJ信託銀行(株)執行 役員受託財産企画部長兼(株) 三菱UFJフィナンシャルグ ループ執行役員受託業務企画部 長 平成23年6月 当社執行役員 管理本部副本部 長兼経営企画部長兼システム統 括部長 平成26年6月 取締役兼執行役員 管理本部長 兼経営企画部長兼財務部長兼経 理部長兼システム統括部長 平成27年6月 取締役兼常務執行役員 管理本 部長兼経営企画部長兼財務部長 兼システム統括部長(現任)	(注)3	22

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 (監査等委員) (注)2	-	相原 誠	昭和28年1月24日	昭和50年4月 株式会社日本興業銀行入社 平成15年4月 株式会社みずほコーポレート銀行大阪営業第一部長 平成16年4月 みずほ信託銀行株式会社 常務執行役員 平成19年10月 株式会社みずほプライベートウエルスマネジメント 取締役副社長 平成24年4月 取締役 平成24年6月 当社常勤監査役 平成29年6月 取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	3
取締役 (監査等委員) (注)2	-	多田 稔	昭和25年3月16日	昭和47年4月 三菱商事株式会社入社 平成14年4月 鉄鋼本部長 平成15年6月 伯国三菱商事会社社長 平成17年4月 三菱商事株式会社理事 平成18年4月 金属グループCEO補佐 平成22年6月 同社退社 平成23年6月 当社監査役(現任) 平成29年6月 取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	6
取締役 (監査等委員) (注)2	-	乙葉 敏夫	昭和27年7月14日	昭和51年4月 当社入社 平成14年3月 管理本部財務部長 平成23年6月 執行役員 管理本部副本部長兼財務部長 平成24年6月 執行役員 管理本部長兼財務部長 平成26年6月 取締役兼執行役員 総務本部長兼内部監査室長兼CSR推進室長 平成27年5月 取締役兼執行役員 総務本部長兼CSR推進室長 平成29年6月 取締役(監査等委員)(現任)	(注)4	41
計						133

- (注)1. 取締役 相原誠氏及び多田稔氏は、社外取締役であります。
2. 平成29年6月29日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。当社の監査等委員会の体制は次のとおりであります。
委員長 相原誠、委員 多田稔、委員 乙葉敏夫
3. 平成29年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成29年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
5. 当社は執行役員制度を導入しており、平成29年6月29日現在の執行役員は、上記の取締役兼務者2名及び次の6名であります。

役名	氏名	職名
常務執行役員	秋山 武郎	安中製錬所長兼機器部品事業部長
常務執行役員	田島 義巳	小名浜製錬所長兼環境・リサイクル事業部長
常務執行役員	嶋村 登志雄	資源事業部担当兼CBH Resources Ltd.CEO
執行役員	伊藤 正人	電子部品事業本部電子部品事業部長兼藤岡事業所長
執行役員	大久保 浩	総務本部長兼総務部長兼人事部長兼CSR推進室長
執行役員	飯塚 茂	技術・開発本部技術部長兼開発部長兼知的財産部長

6. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠取締役(監査等委員)2名を選任しております。補欠取締役(監査等委員)の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
大坂 周作	昭和37年4月9日	平成9年4月 弁護士登録 平成11年9月 眞田法律事務所入所	-
志々目 昌史	昭和30年2月16日	昭和61年4月 弁護士登録 平成9年10月 志々目法律事務所開設	-

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

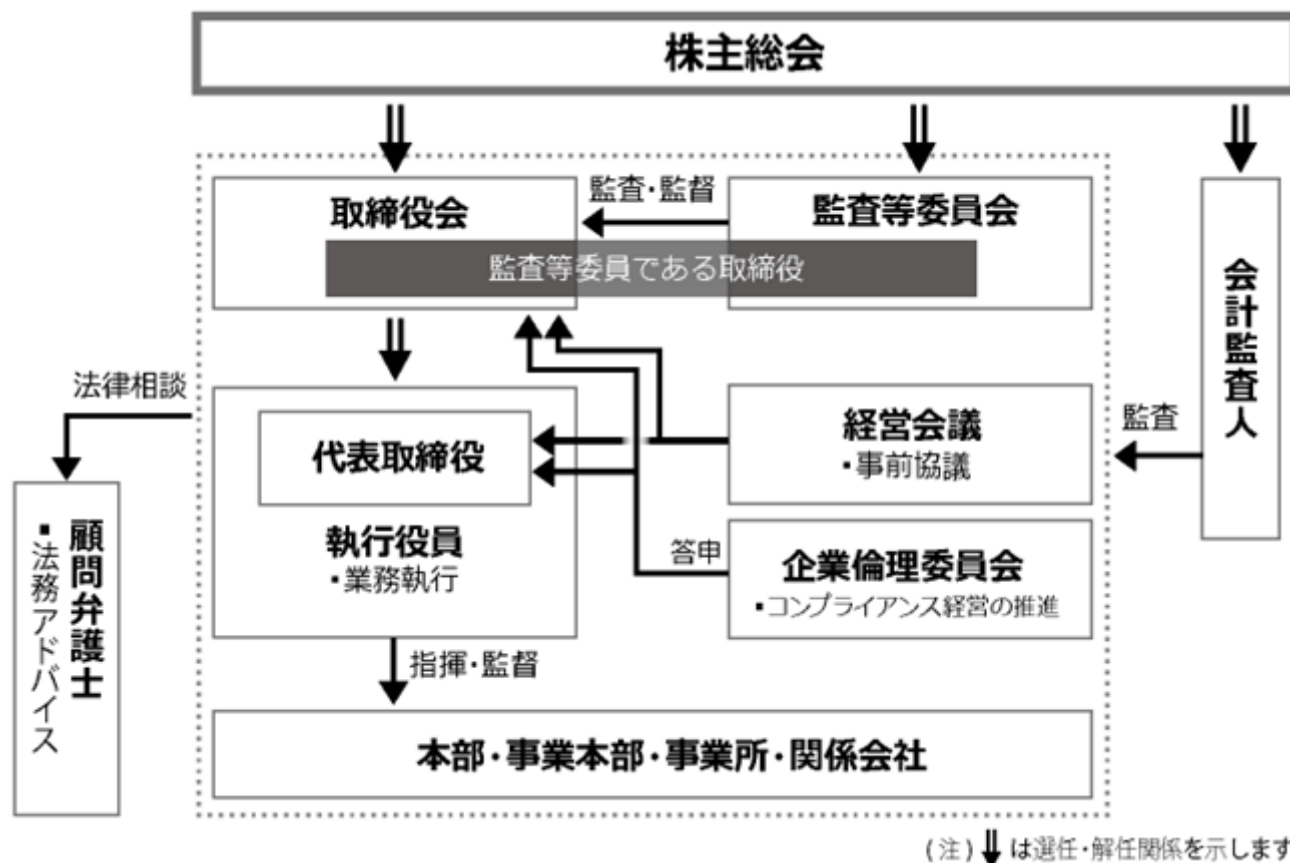
当社の経営理念は、適正かつ最大の収益を目指して揺るぎない企業活動を遂行することにより、当社に關係するすべての人々の利益の増進と企業の発展・向上を図り、もって社会に貢献することです。すなわち、

- ・"顧客"を満足させる良質の製品・サービスを提供する。
- ・"株主"の期待に応える業績をあげ、企業価値の増大を図る。
- ・"従業員"の生活を向上させ、働きがいのある会社にする。
- ・"地域"の一員として認められ、地域にとって存在価値のある会社を目指す。

ということでありす。

当社はこうした経営理念を実現し、より効率的で透明性の高い経営を推進していくために、企業統治の体制や仕組みをさらに整備しその機能を高めていくことが、経営上の最重要課題の一つであると考えております。

当社のコーポレート・ガバナンスに関する主な体制は次のとおりであります。



企業統治の体制

1) コーポレート・ガバナンスの体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、取締役会の職務の執行に対する監査・監督機能の強化を図るとともに、監督と業務執行を分離し、意思決定の機動性・迅速性の向上を目的として、平成29年6月29日開催の第118回定時株主総会の決議をもって、監査等委員会設置会社に移行いたしました。

(ア) 取締役会

当社の取締役会は、意思決定の迅速化と事業規模との適合を勘案し、当社事業に精通した3名の取締役（監査等委員である取締役を除く。）と社外取締役2名を含む3名の監査等委員である取締役からなり、取締役会の機動的運営と監督機能の強化を図っております。

なお、取締役は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）と監査等委員である取締役とを区別して、株主総会において選任され、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は1年、監査等委員である取締役の任期は2年であります。

(イ) 執行役員制度

当社は、取締役会の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、事業部門の業務執行に当たる権限と責任を付与された「執行役員制度」を導入しております。なお、執行役員の任期は1年であります。

執行役員8名(うち、2名取締役兼任)は、機動的かつ迅速に各事業部門の業務執行に当たっております。

(ウ) 監査等委員会

当社は、監査等委員である取締役3名(うち、社外取締役2名)からなる監査等委員会を設置し、取締役の職務の執行の監査・監督を行います。

なお、監査等委員である社外取締役2名は、東京証券取引所が定める独立性基準を満たしております。

また、取締役の業務執行の監督の強化に資するため、常勤監査等委員を1名選任しております。

(エ) 経営会議

取締役及び執行役員を主な構成メンバーとする経営会議を原則として毎月1回開催しております。経営会議においては、取締役会付議事項及び社長決裁事項を事前に協議するほか、全社的に情報を共有すべき事項等について活発な討議、意見交換を行っております。

(オ) その他の各種委員会

取締役及び執行役員を主な構成メンバーとする安全衛生委員会、環境管理委員会、品質保証委員会において、各事業所、各事業部から報告される事業活動に関するリスク管理状況とその対応について討議しております。

また、企業倫理委員会、危機管理委員会においては、全社横断的なコンプライアンスの徹底とリスク管理の推進に努めております。

) 内部統制システムの整備の状況等

当社は、持続的な成長・発展と企業価値の最大化を図っていく上で、東邦亜鉛グループが良き企業市民として存在し行動していくために、社員一人ひとりが自覚し遵守すべき行動指針である「東邦亜鉛グループ行動指針」を制定しております。この行動指針に基づき法令その他の社会規範を遵守し、前述の当社の経営理念を適正に実現するため以下のとおり内部統制システムに関する基本方針を定めております。

(ア) 当社の取締役、執行役員及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、当社の取締役、執行役員及び使用人が遵守すべきコンプライアンス・マニュアル等、コンプライアンスに関する規程を制定、運用、点検するとともに、取締役、執行役員及び使用人の法令、定款遵守状況の監査を有効に実施するなどコンプライアンスの充実、強化に努める。

当社は、コンプライアンスに関する役員を任命するほか、社長を企業倫理委員会委員長に指名し、委員長は、原則として四半期に一度、企業倫理委員会を開催して、当社のコンプライアンスの取組み、運営状況を各委員(取締役及び執行役員)へ報告、周知する。

企業倫理委員会は、CSR推進室と連携して当社のコンプライアンスの取組みを統括し、グループ内通報制度の運営並びに取締役、執行役員及び使用人全体の教育等を行う。

当社は、東邦亜鉛グループ行動指針の中に「市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは断固として対決し、違法、不当な要求には応じない。」と定め、反社会的勢力に対しては、所轄警察署、顧問弁護士等とも連携し、組織的に対応する。

(イ) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会及び経営会議の議事録その他取締役の職務の執行に関わる重要な記録、文書等については、法令、定款及び文書規程に基づき、適切に作成、保存及び管理を行う。

(ウ) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、当社の損失の危険を管理するために、重要事項については、法令、定款及び社内規程等に基づき取締役会及び経営会議その他の当該案件の決定機関において厳正な事前審査を実施し、リスクの把握及び顕在化防止に努める。

当社は、当社の危機管理に関する統括責任者として社長または危機管理担当取締役を危機管理委員会委員長に指名し、委員長は、原則として四半期に一度、取締役及び執行役員を委員とする危機管理委員会を開催する。

危機管理委員会においては、危機管理体制整備の進捗状況を各委員へ報告、周知し、危機管理マニュアル等、損失の危険の管理に関する規程に基づき迅速かつ適切な情報伝達と緊急体制を整備する。

(エ) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、執行役員制度を採用し、業務執行権限を執行役員に委譲して執行責任を明確にするとともに、取締役は、当社に関する経営の意思決定の迅速化、監督機能の強化等、経営の効率化を図る。

当社の取締役会は、当社の経営計画及びその執行方針を決定し、その達成に向けて各部署に対し経営資源、権限の適切な配分を行い、業務の執行状況を監督する。その体制は、現在、任期1年の取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名、任期2年の監査等委員である取締役3名で構成されているが、引き続き、意思決定を迅速に行い得る当社の事業規模に見合った適正な体制をとる。

当社は、取締役のほか、執行役員等も参加する経営会議を設置（原則として、月1回開催）し、業務の執行に関する個別経営課題を実務的な観点から協議するとともに、情報交換の円滑化を図る。

(オ) 当社及び当社の子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社の子会社の取締役の職務の執行等に係る事項の当社への報告に関する体制

- ・ 当社は、当社が定めるグループ会社管理規程に基づき、子会社の営業成績、財務状況その他の重要な情報について、必要に応じて当社への報告を求める。

当社の子会社の損失の危険に関する規程その他の体制

- ・ 当社は、当社が定める危機管理マニュアルに基づき、子会社のリスクの把握を行うとともに、リスクの管理状況につき定期的または都度報告を受ける。

当社の子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・ 当社は、各子会社について当社内の主管部を定め、当該部署が、子会社の事業内容、規模、その他の状況に応じて助言、指導を行うことを通じて、子会社の取締役の職務の執行の効率性の向上を図る。

当社の子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ・ 当社は、当社が定める東邦亜鉛グループ行動指針を、子会社の全取締役及び使用人に周知徹底し、コンプライアンスの推進に努める。

(カ) 当社の監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項並びに当該使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性及び監査等委員会の当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査等委員会は、その職務を補助すべき使用人に対し、補助者として監査業務の補助を行うよう命令できるものとする。

上記の監査補助業務については、補助者の指揮命令権は監査等委員会に委譲されたものとし、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の指揮命令は及ばないものとする。補助者の人事に関する事項のうち異動、考課、懲罰については監査補助業務の実効性を妨げるものにならないよう留意するものとする。

(キ) 当社の監査等委員会への報告に関する体制

当社及び当社の子会社の取締役、執行役員及び使用人は、その分掌する業務に関連して次に定める事項があることを知った場合は、法令その他コンプライアンス・マニュアル等、社内規程に定める方法により、直接またはCSR推進室を通じ当社の監査等委員会へ速やかに適切な報告を行う。また、監査等委員会から業務に関する報告を求められた場合も同様とする。

- ・ 会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実
- ・ 取締役（監査等委員である取締役を除く。）、執行役員及び使用人の職務の執行に関する不正行為
- ・ 法令、定款に違反する事実
- ・ 当社の重要な会議の開催予定等

監査等委員会へ報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。

(ク) その他当社の監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査等委員は、取締役会、経営会議等の重要な会議や各種委員会に出席するとともに、監査等委員の職務を執行するために必要な情報を共有する。

監査等委員会は、代表取締役社長、監査法人とそれぞれ定期的に意見交換会を開催する。

監査等委員が、その職務の執行について生ずる費用の前払または償還等の請求をしたときは、当社が当該監査等委員の職務の執行に必要なでないと認めた場合を除き、速やかにその費用または債務を処理する。

(ケ) 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の信頼性を確保するために、金融商品取引法及びその他関連法令等の定めるところに適合した内部統制システムを整備するとともに、内部統制が適正に機能することを継続的に評価し、必要に応じて是正を行う。

）リスク管理体制の整備の状況

リスク管理については、「危機管理委員会」において事業活動上のリスクを洗い出し、事業案件ごとにリスクの分析や対策を検討し、リスクを未然に防ぐ体制の整備などグループ全体を統括したリスク管理体制の強化を図っております。

また、教育・研修においてコンプライアンス・マニュアル等を利用し、コンプライアンスの周知徹底を図るなど、さまざまな活動を実施しております。

なお、モニタリングについては、内部統制を維持、強化するため内部監査室による業務プロセスの定期的な監査を行うとともに、CSR推進室が所管する「グループ内通報制度」（ヘルプライン）を設けるなど機能強化を図っております。

内部監査及び監査等委員会監査の状況

内部監査については、内部監査室を設置し、監査計画に基づいて、当社及びグループ会社を対象に、経営の健全性、業務の効率性及び財務報告の信頼性の観点から会社業務全般にわたる内部監査を実施した上で、監査結果を監査等委員を含むすべての取締役へ報告しております。また、会計監査人と適宜連携し、実効的な内部監査の実施に努めております。

なお、有価証券報告書提出日現在の内部監査の人員は兼務者を含め6名であります。

監査等委員会は有価証券報告書提出日現在において社外取締役2名を含む3名で構成され、原則毎月1回開催しております。また、監査業務の補助者として2名が兼務しております。

各監査等委員は、監査等委員会で定めた監査方針のもと職務分担等に従い、取締役会、経営会議等の重要な会議への出席、業務執行取締役等からの職務の執行状況の聴取、重要な書類の閲覧、子会社を含めた役職員からの報告聴取等を通じて取締役の職務の執行状況の監査・監督を行っております。

なお、内部統制システムの状況についても監査等委員会が定めた内部統制システムに係る監査等委員会の監査の実施基準に準拠し、監視、検証を行い、さらに、財務報告に係る内部統制について業務執行取締役等及び監査法人から評価並びに監査の状況について報告を受け必要に応じて説明を求めています。

社外取締役

当社は、経営の監督及び監視のために監査等委員である社外取締役2名を選任しております。

社外取締役 相原誠氏及び多田稔氏には、各々金融機関グループ及び商社において培った国内外における豊富な経験と高い見識に基づき、特定のステークホルダーに偏ることなく独立的な観点から助言・提言し、当社取締役会の意思決定の妥当性・適正性及び相互監視機能をより強化する役割を担っていただくことが期待できるため、両氏を社外取締役に選任しております。

社外取締役 相原誠氏は、当社の取引先銀行であるみずほコーポレート銀行株式会社（現みずほ銀行株式会社）を平成16年3月に退職しております。当社の同行からの借入金及び同行が保有する当社株式の割合は突出しておらず、当社経営の意思決定に際し同行から何ら影響を受けることはありません。従いまして当社は、同行が会社法施行規則第2条第3項第19号口に掲げる「主要な取引先」に該当せず、同氏の社外取締役としての独立性に問題がないと判断しております。

社外取締役 多田稔氏は、当社の取引先である三菱商事株式会社を平成22年6月に退職しております。当社は複数の商社と取引関係にありますが、当社と同社の取引高及び同社が保有する当社株式の割合は突出しておらず、当社経営の意思決定に際し同社から何ら影響を受けることはありません。従いまして当社は、同社が会社法施行規則第2条第3項第19号口に掲げる「主要な取引先」に該当せず、同氏の社外取締役としての独立性に問題がないと判断しております。

以上のとおり、両氏は一般株主との間にも利益相反の生じる恐れはなく、株式会社東京証券取引所に独立役員として届け出ております。

当社は、社外取締役を選任するための独立性に関する基準等は定めておりませんが、選任にあたっては一般株主と利益相反が生じないよう、金融商品取引所の定める独立性に関する判断基準等を参考にしています。

社外取締役は、いずれも当社経営陣から独立した立場で経営の監督・監視を行っており、監査等委員である取締役として、内部監査室及び会計監査人と連携を保ち実効的な監査を行うとともに、定期的に取締役と意見交換等を行うことにより、当社経営の健全性・適正性の確保に努めています。

なお、社外取締役による当社株式の保有は、「役員の状況」の「所有株式数」欄に記載のとおりであります。

会計監査の状況

会計監査人は、監査等委員会と適度な緊張関係を保ちつつも、緊密な連携を保ち、監査計画立案、実行及び監査結果の報告を行うとともに、適宜必要な情報交換を行い、効率的かつ効果的な監査の実施に努めております。

当連結会計年度において会計監査業務を執行した新日本有限責任監査法人の公認会計士の氏名及び監査業務に係る補助者の構成は次のとおりであります。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名
江口 泰志、石川 純夫
- ・会計監査業務に係る補助者の構成
公認会計士 12名、その他 10名

取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は8名以内、監査等委員である取締役は5名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

株主総会決議事項の取締役会での決議

）自己の株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、市場取引等により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

）取締役の責任免除

当社は、取締役がそれぞれ期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって、取締役（取締役であった者を含む。）の同法第423条第1項の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

）中間配当

当社は、株主に対し機動的な利益還元を行えるようにするため、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

株主総会特別決議の要件

当社は、株主総会特別決議に必要な定足数の確保をより確実にするため、会社法第309条第2項の定めによる決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

役員報酬等

) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	
取締役(社外取締役を除く。)	163	113	50	5
監査役(社外監査役を除く。)	6	6	-	1
社外役員	40	40	-	4

- (注) 1. 取締役への支給額には、使用人兼務取締役の使用人給与相当額は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第108回定時株主総会の決議により、月額15百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)としております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第108回定時株主総会の決議により、月額5百万円以内としております。

) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役及び監査役の月例定額報酬については、株主総会の決議により、取締役分及び監査役分それぞれについて月額の限度額が決定されております。各取締役の月例定額報酬は、役職、役割、経験、業績等を加味した、算定の基準となる報酬テーブルを取締役に付議、審議のうえ、個々人の報酬額については代表取締役に一任としております。

取締役の賞与については、当期の業績、株主への配当金、世間の報酬水準、過去の実績等を総合的に勘案し、定時株主総会への上程のうえ承認を得ております。各取締役への配分額については、各取締役の貢献度、目標達成度などに応じて、代表取締役が決定しております。但し、社外取締役については、業務執行から独立した立場での監督機能が重視されることから、個人別の業績を反映することは行わず、月例定額報酬のみとしており、賞与も支給しておりません。

各監査役の報酬は、その職務の独立性という観点から業績に左右されない定額報酬である月例報酬のみとし、職務と職責に応じた報酬額を監査役の協議により決定しております。

なお、退職慰労金制度については、平成19年6月28日開催の第108回定時株主総会の日をもって廃止いたしました。

責任限定契約の概要

当社と取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める最低責任限度額であります。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

株式の保有状況

) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

41銘柄 3,517百万円

) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ジーエス・ユアサコーポレーション	1,072,755	515	継続的な取引関係の維持及び長期安定株主として保有
(株)ブリヂストン	100,100	414	同上
丸一鋼管(株)	106,854	342	同上
新日鐵住金(株)	92,209	201	同上
(株)池田泉州ホールディングス	391,312	160	同上
(株)淀川製鋼所	48,084	119	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	203,050	109	同上
(株)神戸製鋼所	1,015,220	103	同上
(株)常陽銀行	228,247	92	同上
日新製鋼(株)	66,300	90	同上
阪和興業(株)	158,033	77	同上
(株)群馬銀行	147,000	73	同上
佐藤商事(株)	79,000	52	同上
JFEホールディングス(株)	16,691	25	同上
(株)広島銀行	48,150	20	同上
東京製鋼(株)	117,608	19	同上
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	54,100	18	同上
日亜鋼業(株)	33,024	8	同上
東京産業(株)	15,180	6	同上
(株)東和銀行	24,828	2	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	600	2	同上
古河電池(株)	3,000	1	同上
日本坩堝(株)	12,000	1	同上
三谷産業(株)	4,620	1	同上

みなし保有株式

該当事項はありません。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ジーエス・ユアサコーポレーション	1,072,755	570	継続的な取引関係の維持及び長期安定株主として保有
(株)ブリヂストン	100,100	456	同上
丸一鋼管(株)	106,854	365	同上
新日鐵住金(株)	92,209	248	同上
(株)池田泉州ホールディングス	391,312	193	同上
(株)淀川製鋼所	48,752	156	同上
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	203,050	150	同上
阪和興業(株)	158,033	129	同上
(株)めびきフィナンシャルグループ	267,048	127	同上
(株)神戸製鋼所	101,522	108	同上
日新製鋼(株)	66,300	101	同上
(株)群馬銀行	147,000	92	同上
佐藤商事(株)	79,000	72	同上
JFEホールディングス(株)	16,691	33	同上
(株)広島銀行	48,150	24	同上
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	5,410	21	同上
東京製鋼(株)	11,760	21	同上
日亜鋼業(株)	35,874	10	同上
東京産業(株)	15,180	7	同上
(株)東和銀行	24,828	2	同上
(株)三井住友フィナンシャルグループ	600	2	同上
古河電池(株)	3,000	2	同上
日本坩堝(株)	12,000	2	同上
三谷産業(株)	4,620	1	同上

みなし保有株式

該当事項はありません。

-) 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
該当事項はありません。
-) 投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額
該当事項はありません。

) 投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	45	10	45	0
連結子会社	-	-	-	-
計	45	10	45	0

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している者に対して、監査証明業務に基づく報酬として16百万円計上しております。

(当連結会計年度)

連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している者に対して、監査証明業務に基づく報酬として10百万円計上しております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、内部監査の強化に関する業務及び再生可能エネルギー固定価格買取制度の賦課金減免申請に関する確認業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、再生可能エネルギー固定価格買取制度の賦課金減免申請に関する確認業務であります。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、当社の規模、業務の特性及び監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等に的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、定期的かつ継続的に情報収集をしております。

また、新日本有限責任監査法人や企業情報のディスクロージャー支援をしている専門会社等の行う各種の研修に参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,801	10,368
受取手形及び売掛金	12,328	16,805
電子記録債権	1,478	3,665
商品及び製品	13,196	11,730
仕掛品	8,779	9,269
原材料及び貯蔵品	14,229	17,072
繰延税金資産	568	674
その他	1,227	1,921
貸倒引当金	0	16
流動資産合計	61,610	71,491
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3 24,607	3 25,076
減価償却累計額	16,394	16,979
建物及び構築物(純額)	3 8,212	3 8,097
機械装置及び運搬具	3 74,029	3 74,654
減価償却累計額	56,306	59,203
機械装置及び運搬具(純額)	3 17,723	3 15,451
鉱業用地	29	29
減価償却累計額	12	12
鉱業用地(純額)	16	16
土地	2, 3, 6 16,964	2, 3, 6 17,001
リース資産	171	152
減価償却累計額	82	75
リース資産(純額)	89	76
建設仮勘定	866	743
その他	3 2,178	3 2,153
減価償却累計額	1,940	1,941
その他(純額)	3 238	3 211
有形固定資産合計	44,110	41,598
無形固定資産		
鉱業権	11,113	11,051
その他	36	36
無形固定資産合計	11,150	11,088
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 3 3,172	1, 3 3,617
繰延税金資産	119	93
その他	1 2,721	1 2,490
貸倒引当金	723	678
投資その他の資産合計	5,289	5,522
固定資産合計	60,549	58,209
資産合計	122,160	129,700

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,344	6,709
短期借入金	14,749	14,592
1年内返済予定の長期借入金	3 7,339	3 5,377
コマーシャル・ペーパー	3,000	3,000
リース債務	44	21
未払法人税等	192	2,751
未払費用	2,091	2,518
役員賞与引当金	-	50
その他	3,912	3,219
流動負債合計	37,674	38,240
固定負債		
長期借入金	3 31,160	30,853
リース債務	89	68
繰延税金負債	182	408
再評価に係る繰延税金負債	2 4,348	2 4,348
退職給付に係る負債	651	201
役員退職慰労引当金	21	21
金属鉱業等鉱害防止引当金	31	33
環境対策引当金	49	37
関係会社事業損失引当金	-	165
資産除去債務	2,610	2,437
その他	1,153	905
固定負債合計	40,297	39,480
負債合計	77,971	77,721
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,630	14,630
資本剰余金	9,876	9,876
利益剰余金	8,054	16,189
自己株式	24	26
株主資本合計	32,537	40,671
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	622	938
繰延ヘッジ損益	8	247
土地再評価差額金	2 9,003	2 9,003
為替換算調整勘定	2,114	1,576
退職給付に係る調整累計額	81	38
その他の包括利益累計額合計	11,650	11,308
純資産合計	44,188	51,979
負債純資産合計	122,160	129,700

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	114,144	113,952
売上原価	1 102,136	1 92,883
売上総利益	12,008	21,068
販売費及び一般管理費		
販売費	2 6,177	2 4,126
一般管理費	2, 5 4,433	2, 5 4,174
販売費及び一般管理費合計	10,611	8,301
営業利益	1,397	12,766
営業外収益		
受取利息	11	3
受取配当金	78	74
為替差益	-	16
受取ロイヤリティー	-	129
家賃従業員負担金	103	54
その他	534	138
営業外収益合計	727	417
営業外費用		
支払利息	582	522
為替差損	376	-
その他	157	119
営業外費用合計	1,117	642
経常利益	1,007	12,541
特別利益		
固定資産売却益	3 34	3 73
投資有価証券売却益	-	0
特別利益合計	34	73
特別損失		
固定資産除却損	4 247	4 175
減損損失	6 15,403	6 33
関係会社出資金評価損	266	-
関係会社事業損失引当金繰入額	-	165
その他の投資評価損	-	194
その他	7	-
特別損失合計	15,924	568
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	14,882	12,046
法人税、住民税及び事業税	1,283	3,165
法人税等調整額	56	66
法人税等合計	1,339	3,232
当期純利益又は当期純損失()	16,221	8,814
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失()	16,221	8,814

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益又は当期純損失()	16,221	8,814
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	431	315
繰延ヘッジ損益	19	239
土地再評価差額金	244	-
為替換算調整勘定	2,707	538
退職給付に係る調整額	305	119
その他の包括利益合計	1, 2 3,181	1, 2 342
包括利益	19,402	8,471
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	19,402	8,471
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,630	9,876	25,226	24	49,709
当期変動額					
剰余金の配当			950		950
親会社株主に帰属する当期純損失（ ）			16,221		16,221
自己株式の取得				0	0
自己株式の処分		0		0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	0	17,171	0	17,172
当期末残高	14,630	9,876	8,054	24	32,537

	その他の包括利益累計額						純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	1,054	28	8,759	4,822	224	14,832	64,542
当期変動額							
剰余金の配当							950
親会社株主に帰属する当期純損失（ ）							16,221
自己株式の取得							0
自己株式の処分							0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	431	19	244	2,707	305	3,181	3,181
当期変動額合計	431	19	244	2,707	305	3,181	20,354
当期末残高	622	8	9,003	2,114	81	11,650	44,188

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	14,630	9,876	8,054	24	32,537
当期変動額					
剰余金の配当			678		678
親会社株主に帰属する当期純利益			8,814		8,814
自己株式の取得				1	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	8,135	1	8,134
当期末残高	14,630	9,876	16,189	26	40,671

	その他の包括利益累計額						純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	622	8	9,003	2,114	81	11,650	44,188
当期変動額							
剰余金の配当							678
親会社株主に帰属する当期純利益							8,814
自己株式の取得							1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	315	239		538	119	342	342
当期変動額合計	315	239	-	538	119	342	7,791
当期末残高	938	247	9,003	1,576	38	11,308	51,979

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	14,882	12,046
減価償却費	7,924	5,347
減損損失	15,403	33
のれん償却額	30	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	88	28
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	350	277
受取利息及び受取配当金	90	78
支払利息	582	522
為替差損益(は益)	195	43
有形固定資産売却損益(は益)	27	73
有形固定資産除却損	247	175
売上債権の増減額(は増加)	1,953	6,625
たな卸資産の増減額(は増加)	6,553	1,901
仕入債務の増減額(は減少)	371	267
未払消費税等の増減額(は減少)	228	108
その他	556	175
小計	17,216	8,632
利息及び配当金の受取額	93	78
利息の支払額	566	520
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	2,885	550
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,858	7,639
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,853	2,935
有形固定資産の売却による収入	363	73
無形固定資産の取得による支出	1,925	1,122
投資有価証券の取得による支出	3	3
貸付金の回収による収入	0	7
その他	200	144
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,619	4,125
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,685	-
長期借入れによる収入	11,400	5,550
長期借入金の返済による支出	12,747	7,769
コマーシャル・ペーパーの増減額(は減少)	3,000	-
自己株式の取得による支出	0	1
配当金の支払額	950	678
その他	46	42
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,030	2,941
現金及び現金同等物に係る換算差額	35	6
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,173	566
現金及び現金同等物の期首残高	8,628	9,801
現金及び現金同等物の期末残高	9,801	10,368

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 6社

連結子会社の名称 (株)ティーディーイー
安中運輸(株)
契島運輸(株)
東邦キャリア(株)
(株)中国環境分析センター
CBH Resources Ltd.

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社 東邦亜鉛香港有限公司

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 -

(2) 持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社のうち、主要な会社等の名称 東邦亜鉛香港有限公司
非連結子会社(8社)及び関連会社(4社)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちCBH Resources Ltd.の決算日は12月31日であります。

連結財務諸表作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に発生した連結会社間の重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。その他の連結子会社の決算日は連結決算日と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日前1ヵ月間の市場価格等の平均に基づいて算定された価額に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

主として商品、製品、半製品、仕掛品及び原材料については先入先出法(一部移動平均法)による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)、貯蔵品については移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

鉱業権

主として生産高比例法により償却しております。

その他

主として定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権・貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規定に基づく期末要支給額を計上しております。

なお、当社につきましては、平成19年5月22日開催の取締役会決議により役員退職慰労金制度を廃止しましたので、当連結会計年度末残高は、取締役及び監査役が平成19年6月以前に就任していた期間に応じた額であります。

金属鉱業等鉱害防止引当金

金属鉱業等鉱害対策特別措置法に規定する特定施設の使用終了後における鉱害防止費用の支出に備えるため、同法第7条第1項の規定により石油天然ガス・金属鉱物資源機構に積立てることを要する金額相当額を計上しております。

環境対策引当金

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、今後発生が見込まれるPCB廃棄物の処理費用に充てるため、その所要見込額を計上しております。

関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案して、損失負担見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整のうえ、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他の工事

工事完成基準

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

- a ヘッジ手段...商品先物取引
ヘッジ対象...国際相場の影響を受ける原料・製品等
- b ヘッジ手段...金利スワップ
ヘッジ対象...借入金
- c ヘッジ手段...外貨建預金の保有
ヘッジ対象...外貨による固定資産購入等

ヘッジ方針

原料・製品等の価格変動リスク、金利リスク及びキャッシュ・フロー変動リスクの低減のためヘッジを行っております。

ヘッジの有効性評価の方法

商品先物取引及び外貨建預金については、ヘッジ開始時から有効性判定時までの期間において、ヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動の累計を比較する方法等により、ヘッジの有効性を判定しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヵ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

(未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、流動資産の「受取手形及び売掛金」に含めて表示しておりました「電子記録債権」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産の「受取手形及び売掛金」に表示していた13,807百万円は、「受取手形及び売掛金」12,328百万円、「電子記録債権」1,478百万円として組み替えております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「受取保険金」は、金額的重要性が乏しいため、当連結会計年度より「営業外収益」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取保険金」364百万円、「その他」169百万円は、「営業外収益」の「その他」534百万円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資その他の資産「投資有価証券」	88百万円	88百万円
投資その他の資産「その他」	369 "	369 "

2. 土地再評価法の適用

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日改正)に基づき事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」に定める再評価の方法については、土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める地方税法(昭和25年法律第226号)第341条第10号の土地課税台帳又は同条第11号の土地補充課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算定する方法により算出しております。

再評価を行った年月日・・・平成12年3月31日

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価が再評価後の帳簿価額を下回った場合の差額	7,732百万円	7,841百万円

3. 担保資産及び担保付債務

(1) 工場財団担保

担保に供している資産

下記資産に対して、取引銀行1行との間に極度額1百万円の根抵当権が設定されております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
建物及び構築物	4,634百万円	4,835百万円
機械装置及び運搬具他	6,391 "	6,227 "
土地	13,792 "	13,787 "
計	24,818 "	24,850 "

(2) その他の担保

担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券	18百万円	23百万円
担保付債務		

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	9百万円	2百万円
長期借入金	2 "	- "
計	11 "	2 "

4. 偶発債務

債権流動化に伴う買戻し義務

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債権流動化に伴う買戻し義務	502百万円	529百万円

5. 貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
貸出コミットメント契約の総額	5,600百万円	5,600百万円
借入実行残高	- "	- "
差引額	5,600 "	5,600 "

6. 国庫補助金等による固定資産圧縮記帳額

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
土地	53百万円	53百万円

(連結損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損益(は益)が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
3百万円	194百万円

2. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
商品及び製品運賃諸掛	6,177百万円	4,126百万円
従業員給与及び賞与	1,566 "	1,354 "
退職給付費用	31 "	50 "
減価償却費	381 "	217 "
研究開発費	117 "	107 "
役員賞与引当金繰入額	- "	50 "
貸倒引当金繰入額	92 "	5 "

3. 固定資産売却益の主なもの、機械装置及び運搬具の売却によるものであります。
4. 固定資産除却損の主なもの、建物及び構築物、機械装置及び運搬具の除却及びその撤去費用であります。
5. 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
117百万円	107百万円

6. 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

場所	用途	種類	その他
群馬県安中市	遊休・休止資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具	-
群馬県藤岡市	遊休・休止資産	建物及び構築物、機械装置及び運搬具	-
オーストラリア ニューサウスウェールズ州	資源事業資産(鉱山資産)	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、鉱業権、のれん	-
オーストラリア ニューサウスウェールズ州他	資源事業資産(探査権)	鉱業権	-

当社の資産グループは、事業用資産においては管理会計上の区分ごとに、遊休・休止資産については個別単位でグループリングしております。

遊休・休止資産については、キャッシュ・イン・フローの生成が見込めず、加えて売却の可能性が極めて低く、帳簿価額全額を減損損失として、特別損失に計上しております。その内訳は、群馬県安中市の建物及び構築物3百万円、機械装置及び運搬具5百万円、群馬県藤岡市の建物及び構築物14百万円、機械装置及び運搬具5百万円であります。

オーストラリアニューサウスウェールズ州の2鉱山(エンデバー鉱山及びラスプ鉱山)は、可採鉱量の減少や市況環境の変化もあり、投下資本に見合うだけの十分なキャッシュ・フローの回収が見込めないと判断し、資源事業に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。その内訳は、建物および構築物631百万円、機械装置及び運搬具2,988百万円、鉱業権11,147百万円、のれん442百万円あります。なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを7%で割り引いて算定しております。

オーストラリアニューサウスウェールズ州他の鉱区における探査権について、今後追加の探査を行わないと判断し、資産として計上した探査権の簿価を減損損失として、特別損失に計上しております。その内訳は鉱業権163百万円であります。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

場所	用途	種類	その他
オーストラリア ニューサウスウェールズ州他	資源事業資産（探査権）	鉱業権	-

当社の資産グループは、事業用資産においては管理会計上の区分ごとに、遊休・休止資産については個別単位でグルーピングしております。

オーストラリアニューサウスウェールズ州他の鉱区における探査権について、今後追加の探査を行わないと判断し、資産として計上した探査権の簿価を減損損失として、特別損失に計上しております。その内訳は鉱業権33百万円であります。

(連結包括利益計算書関係)

1. その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	637百万円	448百万円
組替調整額	0	0
計	637	448
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	1,580	1,764
組替調整額	1,551	1,418
計	28	345
為替換算調整勘定：		
当期発生額	2,707	538
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	379	176
組替調整額	70	3
計	450	172
税効果調整前合計	3,766	263
税効果額	585	79
その他の包括利益合計	3,181	342

2. その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	637百万円	448百万円
税効果額	205	133
税効果調整後	431	315
繰延ヘッジ損益：		
税効果調整前	28	345
税効果額	9	106
税効果調整後	19	239
土地再評価差額金：		
税効果額	244	-
税効果調整後	244	-
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	2,707	538
税効果額	-	-
税効果調整後	2,707	538
退職給付に係る調整額：		
税効果調整前	450	172
税効果額	144	52
税効果調整後	305	119
その他の包括利益合計		
税効果調整前	3,766	263
税効果額	585	79
税効果調整後	3,181	342

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	135,855	-	-	135,855
合計	135,855	-	-	135,855
自己株式				
普通株式(注)	58	1	0	59
合計	58	1	0	59

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加1千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の買増請求による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	950	7	平成27年3月31日	平成27年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	678	利益剰余金	5	平成28年3月31日	平成28年6月30日

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	135,855	-	-	135,855
合計	135,855	-	-	135,855
自己株式				
普通株式(注)	59	3	-	62
合計	59	3	-	62

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加3千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	678	5	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,357	利益剰余金	10	平成29年3月31日	平成29年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
現金及び預金勘定	9,801百万円	10,368百万円
現金及び現金同等物	9,801 "	10,368 "

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、製錬事業における貯蔵設備(構築物)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計方針に関する事項 (2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入及びコマーシャル・ペーパーの発行により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されています。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、適宜先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式及び債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが2ヵ月以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、適宜先物為替予約を利用してヘッジしております。

また、製錬事業等に係る営業債権債務は、LME（ロンドン金属取引所）の価格変動リスクに晒されておりますが、適宜金属先物予約取引を利用してヘッジしております。

借入金は、主に運転資金（主として短期）及び設備投資（長期）に係る資金調達を目的としたものです。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引等、製錬事業等に係る営業債権債務のLME（ロンドン金属取引所）の価格変動リスクに対するヘッジを目的とした金属先物予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項（6）重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、社内規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の社内規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関等に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスク（為替、商品価格並びに金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、適宜先物為替予約等を利用してヘッジしております。また、当社は、製錬事業等に係る営業債権債務のLME（ロンドン金属取引所）の価格変動リスクを抑制するために、適宜金属先物予約取引を利用してしております。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、適宜金利スワップ取引を利用してしております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、市況や発行体との関係等を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取締役を含む財務スタッフ及び各事業部でリスクを管理しており、経営陣へも取引の都度及び定期的に報告することでリスク管理に万全を期しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署及び関係会社からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成28年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	9,801	9,801	-
(2) 受取手形及び売掛金	12,328	12,328	-
(3) 電子記録債権	1,478	1,478	-
(4) 投資有価証券	2,470	2,470	-
資産計	26,079	26,079	-
(1) 支払手形及び買掛金	6,344	6,344	-
(2) 短期借入金	14,749	14,749	-
(3) 長期借入金(*1)	38,499	39,515	1,016
負債計	59,593	60,609	1,016
デリバティブ取引(*2)	(9)	(9)	-

(*1) 1年内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	10,368	10,368	-
(2) 受取手形及び売掛金	16,805	16,805	-
(3) 電子記録債権	3,665	3,665	-
(4) 投資有価証券	2,915	2,915	-
資産計	33,755	33,755	-
(1) 支払手形及び買掛金	6,709	6,709	-
(2) 短期借入金	14,592	14,592	-
(3) 長期借入金(*1)	36,230	36,447	216
負債計	57,533	57,749	216
デリバティブ取引(*2)	(364)	(364)	-

(*1) 1年内返済予定の長期借入金については、長期借入金に含めております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価については、株式等は取引所の価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらの時価は、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似しているものと考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
非上場株式	701	701

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,793	-	-	-
受取手形及び売掛金	12,328	-	-	-
電子記録債権	1,478	-	-	-
合計	23,600	-	-	-

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	10,359	-	-	-
受取手形及び売掛金	16,805	-	-	-
電子記録債権	3,665	-	-	-
合計	30,830	-	-	-

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度（平成28年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	14,749	-	-	-	-	-
長期借入金	7,339	4,259	8,460	10,050	4,210	4,179
合計	22,088	4,259	8,460	10,050	4,210	4,179

当連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	14,592	-	-	-	-	-
長期借入金	5,377	9,577	11,142	5,227	1,620	3,284
合計	19,969	9,577	11,142	5,227	1,620	3,284

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,133	1,088	1,044
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,133	1,088	1,044
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	337	479	141
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	337	479	141
合計		2,470	1,568	902

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 701百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,712	1,265	1,447
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,712	1,265	1,447
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	203	306	102
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	203	306	102
合計		2,915	1,571	1,344

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 701百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	-	-	-

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	0	0	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	0	0	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

商品関連

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	商品先物取引				
	売建				
	金属価格	133	-	4	4

(注) 時価の算定方法

取引先等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	商品先物取引				
	売建				
	金属価格	163	-	5	5

(注) 時価の算定方法

取引先等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 金利関連

前連結会計年度（平成28年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	16,517	13,385	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	13,385	11,677	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(2) 商品関連

前連結会計年度（平成28年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	商品先物取引 売建 金属価格	原料・製品等	9,844	-	6

(注) 時価の算定方法
取引先等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（平成29年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	商品先物取引 売建 金属価格	原料・製品等	10,873	-	341

(注) 時価の算定方法
取引先等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び退職一時金制度を採用しております。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります。)では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給します。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

なお、一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表((3) に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	3,494百万円	3,588百万円
勤務費用	266 "	281 "
利息費用	13 "	2 "
数理計算上の差異の発生額	172 "	59 "
退職給付の支払額	358 "	232 "
退職給付債務の期末残高	3,588 "	3,575 "

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表((3) に掲げられた簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	3,133百万円	3,101百万円
期待運用収益	62 "	62 "
数理計算上の差異の発生額	206 "	117 "
事業主からの拠出額	471 "	476 "
退職給付の支払額	358 "	232 "
年金資産の期末残高	3,101 "	3,524 "

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	190百万円	164百万円
退職給付費用	20 "	11 "
退職給付の支払額	46 "	25 "
退職給付に係る負債の期末残高	164 "	150 "

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	3,588百万円	3,575百万円
年金資産	3,101 "	3,524 "
	486 "	51 "
非積立型制度の退職給付債務	164 "	150 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	651 "	201 "
退職給付に係る負債	651 "	201 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	651 "	201 "

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	263百万円	278百万円
利息費用	13 "	2 "
期待運用収益	62 "	62 "
数理計算上の差異の費用処理額	31 "	35 "
過去勤務費用の費用処理額	38 "	38 "
簡便法で計算した退職給付費用	20 "	11 "
確定給付制度に係る退職給付費用	164 "	221 "

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
数理計算上の差異	379百万円	176百万円
過去勤務費用	- "	- "
合 計	379 "	176 "

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
未認識数理計算上の差異	195百万円	15百万円
未認識過去勤務費用	77 "	38 "
合 計	117 "	54 "

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
債券	33%	36%
株式	51 "	48 "
一般勘定	13 "	13 "
その他	3 "	3 "
合 計	100 "	100 "

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
割引率	0.1%	0.1%
長期期待運用収益率	2.0 "	2.0 "
一時金選択率	100.0 "	100.0 "

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	205百万円	66百万円
資産除去債務	776 "	724 "
たな卸資産評価損	189 "	129 "
有形固定資産	1,267 "	954 "
未払賞与	145 "	239 "
未払事業税	103 "	151 "
繰延ヘッジ損益	6 "	111 "
連結会社間内部利益消去	50 "	38 "
その他	3,659 "	3,242 "
繰延税金資産小計	6,404 "	5,659 "
評価性引当額	4,506 "	3,691 "
繰延税金資産合計	1,897 "	1,968 "
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	275 "	406 "
鉱業権	532 "	547 "
繰延ヘッジ損益	1 "	- "
固定資産圧縮積立金	9 "	7 "
特別償却準備金	57 "	47 "
資産除去債務	4 "	4 "
その他	511 "	594 "
繰延税金負債合計	1,391 "	1,608 "
繰延税金資産の純額	505 "	359 "
繰延税金負債		
再評価に係る繰延税金負債	4,348 "	4,348 "

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	568百万円	674百万円
固定資産 - 繰延税金資産	119 "	93 "
固定負債 - 繰延税金負債	182 "	408 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率		30.86%
(調整)		
在外連結子会社の繰越欠損金の利用	税金等調整前当期純	5.48%
連結子会社間の内部利益消去	損失を計上しているた	0.85%
評価性引当額の増減	め記載しておりませ	0.61%
その他	ん。	0.01%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		26.83%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

主に連結子会社であるCBH Resources Ltd. が保有するエンデバー鉱山及びラスプ鉱山の閉山時の原状回復義務等があります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間は操業開始時からの採掘可能年数によっており、割引率は0.7%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
期首残高	1,555百万円	2,610百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	14 "	- "
見積りの変更による増加額	1,249 "	- "
時の経過による調整額	5 "	6 "
資産除去債務の履行による減少額	25 "	- "
その他増減額(は減少)	190 "	179 "
期末残高	2,610 "	2,437 "

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、当社及び所管する連結子会社を通じて、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成された、「製錬」、「電子部材」、「環境・リサイクル」並びに連結子会社であるCBH Resources Ltd.を基礎として構成された「資源」の4つを報告セグメントとしております。

「製錬」事業においては、亜鉛製品・鉛製品、電気銀並びに硫酸等の製造・販売をしております。

「資源」事業においては、非鉄金属資源の探査、開発、生産及び生産物の販売をしております。

「電子部材」事業においては、電子部品、電解鉄、プレーティング並びに機器部品等の製造・販売をしております。

「環境・リサイクル」事業においては、酸化亜鉛の製造・販売、廃棄物処理再生等をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	製錬	資源	電子 部材	環境・リ サイクル	計				
売上高									
外部顧客への売上高	77,903	18,154	6,155	4,663	106,876	7,268	114,144	-	114,144
セグメント間の内部 売上高又は振替高	775	1,283	0	-	2,060	4,058	6,119	6,119	-
計	78,678	19,437	6,156	4,663	108,937	11,326	120,263	6,119	114,144
セグメント利益又は損 失()	1,813	2,413	675	751	827	751	1,579	182	1,397
セグメント資産	62,721	24,154	10,687	4,711	102,274	5,042	107,316	14,843	122,160
その他の項目									
減価償却費	2,671	4,518	282	264	7,736	118	7,855	68	7,924
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	1,555	3,415	266	207	5,446	178	5,625	11	5,637

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	製錬	資源	電子 部材	環境・リ サイクル	計				
売上高									
外部顧客への売上高	87,341	9,128	5,906	4,536	106,912	7,039	113,952	-	113,952
セグメント間の内部 売上高又は振替高	559	4,197	1	-	4,758	3,576	8,335	8,335	-
計	87,901	13,326	5,907	4,536	111,671	10,616	122,287	8,335	113,952
セグメント利益	8,339	1,985	636	1,410	12,372	739	13,112	345	12,766
セグメント資産	70,919	23,088	10,416	4,871	109,296	4,816	114,113	15,587	129,700
その他の項目									
減価償却費	2,570	2,076	265	249	5,162	130	5,293	53	5,347
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	1,529	1,397	154	208	3,289	423	3,713	31	3,745

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、防音建材、土木・建築・プラントエンジニアリング、運輸、環境分析等を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度
セグメント間取引消去	164	60
全社費用	346	406
合計	182	345

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

セグメント資産

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度
全社資産	14,843	15,587

全社資産は、主に当社での余資運用資金（現金、預金、有価証券）及び管理部門に係る資産であります。

その他の項目

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	68	53
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	11	31

有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、主に報告セグメントに帰属しない設備投資額であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	オセアニア	合計
95,534	9,896	8,713	114,144

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	オーストラリア	合計
33,623	10,486	44,110

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	オーストラリア	合計
32,651	8,947	41,598

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高であって、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	製錬	資源	電子部材	環境・リサイクル	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	15,373	-	-	-	29	15,403

（注） 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない遊休・休止資産に係る減損損失であります。

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	製錬	資源	電子部材	環境・リサイクル	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	33	-	-	-	-	33

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	製錬	資源	電子部材	環境・リサイクル	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	30	-	-	-	-	30
当期末残高	-	-	-	-	-	-	-

当連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	製錬	資源	電子部材	環境・リサイクル	その他	全社・消去	合計
当期償却額	-	-	-	-	-	-	-
当期末残高	-	-	-	-	-	-	-

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	325.40円	382.79円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	119.45円	64.91円

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額()(百万円)	16,221	8,814
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額()(百万円)	16,221	8,814
期中平均株式数(千株)	135,796	135,794

(重要な後発事象)

当社は平成29年4月20日開催の取締役会において、平成29年6月29日開催の第118回定時株主総会に普通株式の併合及び単元株式数の変更について付議することを決議し、同株主総会において承認されました。

(1) 株式併合及び単元株式数の変更の目的

全国証券取引所は、「売買単位の集約に向けた行動計画」を発表し、上場する内国会社の普通株式の売買単位を100株に統一することを目指しております。

当社は、東京証券取引所に上場する会社として、この趣旨を尊重し、当社普通株式の売買単位である単元株式数を1,000株から100株に変更することとし、併せて、単元株式数の変更後も、当社株式の売買単位当たりの価格の水準を維持し、また株主の議決権の数に変更が生じることがないように、当社株式について10株を1株にする併合を行うこととしました。

(2) 株式併合の内容

株式併合する株式の種類

普通株式

株式併合の方法・比率

平成29年10月1日付で、平成29年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主の所有株式数を普通株式10株につき1株の割合で併合いたします。

株式併合により減少する株式数

株式併合前の発行済株式総数(平成29年3月31日現在)	135,855,217株
株式併合により減少する株式数	122,269,696株
株式併合後の発行済株式総数	13,585,521株

(注)「株式併合により減少する株式数」及び「株式併合後の発行済株式総数」は、併合前の発行済株式総数及び併合割合に基づき算出した理論値です。

1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法第235条により、一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

(3) 単元株式数の変更の内容

株式併合の効力発生と同時に、普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更いたします。

(4) 株式併合及び単元株式数の変更の日程

取締役会決議日	平成29年4月20日
株主総会決議日	平成29年6月29日
株式併合及び単元株式数の変更	平成29年10月1日

(5) 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式併合が前連結会計年度の期首に実施されたと仮定した場合の、前連結会計年度及び当連結会計年度における1株当たり情報は以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	3,254.02円	3,827.87円
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 ()	1,194.53円	649.08円

(注) 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	14,749	14,592	1.1	-
1年以内に返済予定の長期借入金	7,339	5,377	0.9	-
1年以内に返済予定のリース債務	44	21	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	31,160	30,853	0.9	平成30年4月～ 平成35年10月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	89	68	-	平成30年4月～ 平成37年3月
その他有利子負債				
コマーシャル・ペーパー(1年以内)	3,000	3,000	0.0	-
合計	56,383	53,913	-	-

(注) 1. 平均利率の算出方法については、当期末残高に基づく平均利率によっております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	9,577	11,142	5,227	1,620
リース債務	9	9	9	9

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	23,655	48,262	80,199	113,952
税金等調整前四半期(当期)純利益 (百万円)	689	2,583	7,476	12,046
親会社株主に帰属する四半期(当 期)純利益(百万円)	521	1,929	5,423	8,814
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	3.84	14.21	39.94	64.91

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	3.84	10.37	25.73	24.97

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,012	6,254
受取手形	1,488	1,597
売掛金	10,087	14,549
電子記録債権	1,478	3,665
商品及び製品	13,474	11,431
仕掛品	8,016	8,722
原材料及び貯蔵品	12,902	15,818
前渡金	361	1,002
前払費用	89	176
繰延税金資産	522	623
関係会社短期貸付金	1,451	1,377
未収入金	1,359	1,149
その他	1,114	1,30
貸倒引当金	0	18
流動資産合計	55,357	64,381
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,2843	2,2691
構築物	2,3335	2,3613
機械及び装置	2,8214	2,7192
船舶	2,67	2,156
車両及びその他の陸上運搬具	2,710	2,664
工具、器具及び備品	2,213	2,193
鉱業用地	16	16
土地	2,516,098	2,516,135
リース資産	89	76
建設仮勘定	875	743
有形固定資産合計	32,464	31,484
無形固定資産		
鉱業権	36	36
ソフトウェア	10	10
施設利用権	10	12
その他	8	7
無形固定資産合計	65	66
投資その他の資産		
投資有価証券	2,3074	2,3517
関係会社株式	12,414	12,414
出資金	194	0
関係会社出資金	369	369
関係会社長期貸付金	4,128	3,522
破産更生債権等	1,576	1,659
長期前払費用	1,84	1,476
その他	1,375	1,252
貸倒引当金	679	671
投資その他の資産合計	20,538	20,540
固定資産合計	53,069	52,090
資産合計	108,427	116,472

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	662	688
買掛金	1 3,919	1 5,196
短期借入金	10,881	10,881
1年内返済予定の長期借入金	2 7,339	2 5,377
コマーシャル・ペーパー	3,000	3,000
リース債務	13	13
未払金	1 1,146	1 777
未払費用	1 1,725	1 2,206
未払法人税等	106	2,637
前受金	249	198
役員賞与引当金	-	50
その他	276	634
流動負債合計	29,321	31,661
固定負債		
長期借入金	2 31,160	30,853
長期預り金	26	66
再評価に係る繰延税金負債	4,348	4,348
繰延税金負債	221	396
リース債務	81	68
退職給付引当金	369	105
役員退職慰労引当金	21	21
金属鉱業等鉱害防止引当金	31	33
環境対策引当金	49	37
関係会社事業損失引当金	-	165
資産除去債務	21	21
その他	3	4
固定負債合計	36,334	36,122
負債合計	65,655	67,783
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,630	14,630
資本剰余金		
資本準備金	6,950	6,950
その他資本剰余金	2,926	2,926
資本剰余金合計	9,876	9,876
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	20	17
特別償却準備金	128	107
繰越利益剰余金	8,508	14,380
利益剰余金合計	8,657	14,505
自己株式	24	26
株主資本合計	33,140	38,987
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	623	933
繰延ヘッジ損益	4	236
土地再評価差額金	9,003	9,003
評価・換算差額等合計	9,631	9,701
純資産合計	42,771	48,688
負債純資産合計	108,427	116,472

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上高	1 97,976	1 101,403
売上原価	1 89,900	1 86,243
売上総利益	8,076	15,160
販売費及び一般管理費	1, 2 4,889	1, 2 5,124
営業利益	3,186	10,035
営業外収益		
受取利息	1 126	1 123
受取配当金	1 476	1 280
為替差益	631	15
その他	1 435	1 116
営業外収益合計	1,670	537
営業外費用		
支払利息	448	416
環境対策費用	20	35
その他	131	65
営業外費用合計	601	517
経常利益	4,256	10,055
特別利益		
固定資産売却益	3	-
投資有価証券売却益	-	0
特別利益合計	3	0
特別損失		
固定資産除却損	3 247	3 174
減損損失	29	-
関係会社株式評価損	28,798	-
関係会社出資金評価損	266	-
関係会社事業損失引当金繰入額	-	165
その他の投資評価損	-	194
特別損失合計	29,341	534
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	25,081	9,521
法人税、住民税及び事業税	1,088	2,942
法人税等調整額	21	51
法人税等合計	1,109	2,994
当期純利益又は当期純損失()	26,191	6,527

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金					利益剰余金合計
					固定資産圧縮積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金			
当期首残高	14,630	6,950	2,926	9,876	22	146	35,631	35,800	24	60,283
当期変動額										
剰余金の配当							950	950		950
固定資産圧縮積立金の取崩					2		2	-		-
特別償却準備金の取崩						17	17	-		-
当期純損失（ ）							26,191	26,191		26,191
自己株式の取得									0	0
自己株式の処分			0	0					0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	0	0	2	17	27,122	27,142	0	27,143
当期末残高	14,630	6,950	2,926	9,876	20	128	8,508	8,657	24	33,140

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,053	28	8,759	9,784	70,067
当期変動額					
剰余金の配当					950
固定資産圧縮積立金の取崩					-
特別償却準備金の取崩					-
当期純損失（ ）					26,191
自己株式の取得					0
自己株式の処分					0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	429	32	244	153	153
当期変動額合計	429	32	244	153	27,296
当期末残高	623	4	9,003	9,631	42,771

当事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余 金合計	その他利益剰余金				利益剰余 金合計	
					固定資産 圧縮積立 金	特別償却 準備金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	14,630	6,950	2,926	9,876	20	128	8,508	8,657	24	33,140
当期変動額										
剰余金の配当							678	678		678
固定資産圧縮積立 金の取崩					2		2	-		-
特別償却準備金の 取崩						21	21	-		-
当期純利益							6,527	6,527		6,527
自己株式の取得									1	1
株主資本以外の項 目の当期変動額 （純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	2	21	5,872	5,848	1	5,847
当期末残高	14,630	6,950	2,926	9,876	17	107	14,380	14,505	26	38,987

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	623	4	9,003	9,631	42,771
当期変動額					
剰余金の配当					678
固定資産圧縮積立 金の取崩					-
特別償却準備金の 取崩					-
当期純利益					6,527
自己株式の取得					1
株主資本以外の項 目の当期変動額 （純額）	310	240		69	69
当期変動額合計	310	240	-	69	5,916
当期末残高	933	236	9,003	9,701	48,688

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日前1ヵ月間の市場価格等の平均に基づいて算定された価額に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として商品、製品、半製品、仕掛品及び原材料については先入先出法(一部移動平均法)による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)、貯蔵品については移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却をしております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規定に基づく期末要支給額を計上しております。

なお、平成19年5月22日開催の取締役会決議により役員退職慰労金制度を廃止しましたので、当事業年度末残高は、取締役及び監査役が平成19年6月以前に就任していた期間に応じた額であります。

(5) 金属鉱業等鉱害防止引当金

金属鉱業等鉱害対策特別措置法に規定する特定施設の使用終了後における鉱害防止費用の支出に備えるため、同法第7条第1項の規定により石油天然ガス・金属鉱物資源機構に積立てることを要する金額相当額を計上しております。

(6) 環境対策引当金

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、今後発生が見込まれるPCB廃棄物の処理費用に充てるため、その所要見込額を計上しております。

(7) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に係る損失に備えるため、当該会社の財政状態を勘案して、損失負担見込額を計上しております。

6. 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。また、金利スワップについて特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

- a ヘッジ手段...商品先物取引
ヘッジ対象...国際相場の影響を受ける原料・製品等
- b ヘッジ手段...金利スワップ
ヘッジ対象...借入金

(3) ヘッジ方針

原料・製品等の価格変動リスクを回避するため及び金利リスクの低減のためヘッジを行っております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

商品先物取引については、ヘッジ開始時から有効性判定時までの期間において、ヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、有効性を判定しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては有効性の評価を省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、流動資産の「受取手形」に含めて表示しておりました「電子記録債権」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、流動資産の「受取手形」に表示していた1,966百万円は、「受取手形」488百万円、「電子記録債権」1,478百万円として組み替えております。

(損益計算書)

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「受取保険金」は、金額的重要性が乏しいため、当事業年度より「営業外収益」の「その他」に含めております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取保険金」336百万円、「その他」99百万円は、「営業外収益」の「その他」435百万円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に関するもの

関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります(区分表示したものを除く)。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
短期金銭債権	553百万円	622百万円
長期金銭債権	696 "	662 "
短期金銭債務	452 "	708 "

2. 担保資産及び担保付債務

(1) 工場財団担保

下記資産に対して、取引銀行1行との間に極度額1百万円の根抵当権が設定されております。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物	1,735百万円	1,655百万円
構築物	2,898 "	3,179 "
機械及び装置他	6,391 "	6,227 "
土地	13,792 "	13,787 "
計	24,818 "	24,850 "

(2) その他の担保

担保に供している資産

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券	18百万円	23百万円
被担保債務		
	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	9百万円	2百万円
長期借入金	2 "	- "
計	11 "	2 "

3. 保証債務等

(1) 保証債務

次の関係会社等について、金融機関等からの借入又は取引債務に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
CBH Resources Ltd.	6,175百万円	5,743百万円

(2) 債権流動化に伴う買戻し義務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
債権流動化に伴う買戻し義務	502百万円	529百万円

4. 貸出コミットメント契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
貸出コミットメント契約の総額	5,600百万円	5,600百万円
借入実行残高	- "	- "
差引額	5,600 "	5,600 "

5. 国庫補助金等による固定資産圧縮記帳額

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
土地	53百万円	53百万円

(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
営業取引		
売上高	1,896百万円	1,954百万円
仕入高	12,581 "	9,770 "
営業取引以外の取引高	646 "	363 "

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
運賃諸掛	2,628百万円	2,881百万円
給料及び手当	591 "	549 "
退職給付費用	27 "	40 "
減価償却費	56 "	35 "
役員賞与引当金繰入額	- "	50 "
貸倒引当金繰入額	91 "	10 "
おおよその割合		
販売費	54%	56%
一般管理費	46%	44%

3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物	14百万円	2百万円
構築物	1 "	6 "
機械及び装置	50 "	21 "
工具、器具及び備品他	4 "	0 "
撤去費用等	176 "	143 "
計	247 "	174 "

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額 子会社株式12,332百万円、関連会社株式82百万円、前事業年度の貸借対照表計上額 子会社株式12,332百万円、関連会社株式82百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
関係会社株式評価損	10,209百万円	10,209百万円
退職給付引当金	113 "	32 "
たな卸資産評価損	189 "	129 "
たな卸資産払出差額(鉱石)	110 "	- "
未払事業税	96 "	141 "
未払賞与	112 "	198 "
繰延ヘッジ損益	- "	105 "
減損損失	153 "	150 "
その他	530 "	664 "
繰延税金資産小計	11,514 "	11,630 "
評価性引当額	10,867 "	10,939 "
繰延税金資産合計	647 "	690 "
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	274 "	404 "
繰延ヘッジ損益	1 "	- "
固定資産圧縮積立金	9 "	7 "
特別償却準備金	57 "	47 "
資産除去債務	4 "	4 "
繰延税金負債合計	347 "	464 "
繰延税金資産の純額	300 "	226 "
繰延税金負債		
再評価に係る繰延税金負債	4,348 "	4,348 "

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度は、税引前の損益が純損失のため記載を省略しております。当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

当社は平成29年4月20日開催の取締役会において、平成29年6月29日開催の第118回定時株主総会に普通株式の併合及び単元株式数の変更について付議することを決議し、同株主総会において承認されました。

(1) 株式併合及び単元株式数の変更の目的

全国証券取引所は、「売買単位の集約に向けた行動計画」を発表し、上場する内国会社の普通株式の売買単位を100株に統一することを目指しております。

当社は、東京証券取引所に上場する会社として、この趣旨を尊重し、当社普通株式の売買単位である単元株式数を1,000株から100株に変更することとし、併せて、単元株式数の変更後も、当社株式の売買単位当たりの価格の水準を維持し、また株主の議決権の数に変更が生じることがないように、当社株式について10株を1株にする併合を行うこととしました。

(2) 株式併合の内容

株式併合する株式の種類

普通株式

株式併合の方法・比率

平成29年10月1日付で、平成29年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主の所有株式数を普通株式10株につき1株の割合で併合いたします。

株式併合により減少する株式数

株式併合前の発行済株式総数(平成29年3月31日現在)	135,855,217株
株式併合により減少する株式数	122,269,696株
株式併合後の発行済株式総数	13,585,521株

(注)「株式併合により減少する株式数」及び「株式併合後の発行済株式総数」は、併合前の発行済株式総数及び併合割合に基づき算出した理論値です。

1株未満の端数が生じる場合の処理

株式併合の結果、1株に満たない端数が生じた場合には、会社法第235条により、一括して処分し、その処分代金を端数が生じた株主に対して、端数の割合に応じて分配いたします。

(3) 単元株式数の変更の内容

株式併合の効力発生と同時に、普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更いたします。

(4) 株式併合及び単元株式数の変更の日程

取締役会決議日	平成29年4月20日
株主総会決議日	平成29年6月29日
株式併合及び単元株式数の変更	平成29年10月1日

(5) 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式併合が前事業年度の期首に実施されたと仮定した場合の、前事業年度及び当事業年度における1株当たり情報は以下のとおりです。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
1株当たり純資産額	3,149.71円	3,585.52円
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 ()	1,928.76円	480.67円

(注) 当事業年度年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	期末残高 (百万円)	期末減価償却 累計額又は償 却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引期末 帳簿価額 (百万円)
有形固定資産							
建物	10,298	95	80	10,313	7,621	234	2,691
構築物	10,527	534	36	11,025	7,411	249	3,613
機械及び装置	59,168	1,527	690	60,005	52,813	2,516	7,192
船舶	415	108	-	523	367	20	156
車両及びその他の陸上運 搬具	1,270	35	8	1,297	633	81	664
工具、器具及び備品	1,839	58	85	1,811	1,618	76	193
鉱業用地	29	-	-	29	12	-	16
土地	16,098 (13,351)	37 (-)	- (-)	16,135 (13,351)	-	-	16,135
リース資産	158	-	5	152	75	12	76
建設仮勘定	875	2,259	2,390	743	-	-	743
有形固定資産計	100,680	4,656	3,297	102,039	70,555	3,190	31,484
無形固定資産							
鉱業権	142	-	-	142	106	-	36
ソフトウェア	192	5	9	189	178	5	10
施設利用権	461	2	0	463	451	0	12
その他	201	-	140	60	53	0	7
無形固定資産計	998	8	150	856	789	7	66

(注) 1. 期首残高及び期末残高は取得価額により記載しております。

2. 土地の期首残高、当期増加額、当期減少額及び期末残高の()内は内書きで、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)により行った事業用土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

3. 当期増加額の内訳は次のとおりであります。

機械及び装置	：安中製錬所	亜鉛製品製造設備等	475百万円
	小名浜製錬所	亜鉛鉱石焙焼設備・酸化亜鉛製造設備等	258 "
	契島製錬所	鉛製品製造設備等	459 "
	藤岡事業所	電子部品・電子材料製造設備等	334 "
	計		1,527 "
建設仮勘定	：安中製錬所	亜鉛製品製造設備等	920 "
	小名浜製錬所	亜鉛鉱石焙焼設備・酸化亜鉛製造設備等	313 "
	契島製錬所	鉛製品製造設備等	516 "
	藤岡事業所	電子部品・電子材料製造設備等	470 "
	その他		38 "
	計		2,259 "

【引当金明細表】

科目	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	680	22	-	12	690
役員賞与引当金	-	50	-	-	50
役員退職慰労引当金	21	-	-	-	21
金属鉱業等鉱害防止引当金	31	2	-	-	33
環境対策引当金	49	-	12	-	37
関係会社事業損失引当金	-	165	-	-	165

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)欄の金額は、洗い替えによる戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告は、電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。
株主に対する特典	該当事項はありません

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2号各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利、募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第117期）（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）平成28年6月29日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成28年6月29日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第118期第1四半期）（自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）平成28年8月9日関東財務局長に提出。

（第118期第2四半期）（自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）平成28年11月8日関東財務局長に提出。

（第118期第3四半期）（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）平成29年2月7日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成28年7月4日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年6月29日

東邦亜鉛株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江口 泰志 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石川 純夫 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東邦亜鉛株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東邦亜鉛株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、東邦亜鉛株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、東邦亜鉛株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年6月29日

東邦亜鉛株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 江口 泰志 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石川 純夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている東邦亜鉛株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第118期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、東邦亜鉛株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

() 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。